環境経営レポート

2024年版

〈2023年3月1日～2024年2月29日〉

RAI Hatome Ind.Co.,Ltd.

来ハトメ工業株式会社

脱炭素チャレンジカップ2023 CO2 グランプリ 環境大臣賞

2017 環境コミュニケーション大賞 大賞 環境活動レポート部門

2018 環境コミュニケーション大賞 優秀賞 環境活動レポート部門

2019 環境コミュニケーション大賞 大賞 環境経営レポート部門

環境コミュニケーション大賞 殿堂 2019 - 2022

2021 環境コミュニケーション大賞 優秀賞 環境報告部門

私たちは、地域と地球の環境に配慮した事業者です ea ®環境省

エコアクション21

認証番号0005644

2024年7月3日発行

1．はじめに　2

2．会社概要及び環境報告の基礎情報　3

1）　登録事業者の概要
2）　沿革（日本の戦後と共に歩んだ当社78年の軌跡）
3）　当社従業員紹介

3．Plan 計画　経営責任者のコミットメント　13

1）　Plan 計画　環境経営方針
2）　Plan 計画　品質方針
3）　Plan 計画　2023年度の変更点

4．Do 実施　実施体制及びガバナンス　15

1）　Do 実施　EA21環境経営組織図
2）　Do 実施　役割責任及び権限
3）　Do 実施　2023年度の変更点
4）　Do 実施　ガバナンス(課題とチャンス、マテリアリティ分析)

5．PDCAで見る環境関連法規遵守の取組　17

1）　Plan 計画　法規制遵守関連の環境経営計画と関連SDGs
2）　Do 実施　Check 確認　法規制遵守状況のチェック結果
3）　Check 確認　違反・訴訟の有無
4）　Check 確認　法規制の遵守状況の評価と次年度以降の取組内容
5）　Act 見直し　法規制遵守の取組に関する代表者の評価・指示

6．PDCAで見る緊急事態の想定とその対応策　23

1）　Plan 計画　想定される緊急事態
2）　Plan 計画　環境経営計画とSDGs
3）　Do 実施　緊急事態の対応及び訓練状況
4）　Check 確認　緊急事態の想定・訓練の評価と次年度以降の取組内容
5）　Act 見直し　緊急事態の想定・訓練に関する代表者の評価・指示

7．数字で見る2023年度環境負荷の全体像　25

1）　Check 確認　過去5年間の環境負荷の実績
2）　Check 確認　2023年度の実績と目標達成状況
3）　Check 確認　2023年度マテリアルバランス

8．PDCAで見る2023年度環境活動　27

9．Act 見直し　代表者レビュー　47

1）　Act 見直し　全体的な感想
2）　Act 見直し　指示

来ハトメ環境トピックス2023　目次

① 苦節（？）7年　取組の先に得たものとは？～2023年度「私のSDGs」ふり返り(個人の取組)編～　22
② 「SDGsが紡いだ縁」で新たな取組に挑戦～中小企業診断士と協働で挑戦したCFP算定～　31,32
③ 目指すは「更に持続可能な企業」～SDGs、脱炭素の次の取組～　38

アイコンの見方について

エコアクション21ガイドライン(2017年版)要求事項の適合性を明確にするために、主にタイトルの前等に4つのアイコン(Plan(計画)、Do(実施)、Check(確認)、Act(見直し))を付けています。
4つのアイコンは、それぞれ、以下の様な取組であることを示すものです。

Plan 計画　：EA21ガイドライン要求事項1～6(計画の策定(Plan))に該当する取組であることを示します。
Do 実施　：EA21ガイドライン要求事項7～12(計画の実施(Do))に該当する取組であることを示します。
Check 確認　：EA21ガイドライン要求事項13(取組状況の把握及び評価(Check))に該当する取組であることを示します。
Act 見直し　：EA21ガイドライン要求事項14(全体の評価と見直し(Act))に該当する取組であることを示します。

「溶けた4,000万円」

私が社長を拝命してから早いもので11年が経つ。私にとって良い事も悪い事もあったが、悪い事の方が圧倒的に印象に残っている。その一つを今回は紹介しようと思う。
それは、令和2年の春のことであった。
世の中は例のコロナショックの真っ只中で、世界中でマスク姿が目立っていた時である。景気の方は前年より最悪の状態で、時に、飲食店がどこもかしこも大変な事になっていた。当社も中国とトランプとの貿易問題のあおりを食い、お世辞にも良い状態ではなかった。
そんな中、取引先の銀行より一本の電話が鳴った。会って話を聞いてみると、例の「0,0融資」の話である。御存じの方も多いであろうが、一定の条件、前年度より売り上げが下がった企業に対しては担保なし、金利なしで4,000万円まで借りられる制度である。銀行の担当者も銀行内での立場があるので、是非借りてくれという。私も「それでは借りましょうか」という少し余裕の体で借りることにした。
融資が下りたのは、かなり早く、翌5月であった。
中国とトランプとの貿易摩擦は増々厳しさを増し、いよいよお互いの関税の引き上げと発展し、景気もそれに伴って悪化の一途をたどった。
9月になって当社会長(兄です)が、朝の2人だけのミーティングの場で私に言うのである。
「あの4,000万円なんだけど、3ヵ月で底をついたんだ……。」
「エーッ？」
とつい私は大声を出し、9時になるのを待って、大慌てで銀行に電話をし、事情を全て担当者に話した。
担当者はその日の午後、当社にやってきて、開口一番
「社長、今度は前のようにはいきませんよ。」
私も必死だったもので
「ハイ、分かっております。もう4,000万円、お借りしたいのですが……。」
前回とは全く立場が違うのであるが、何とか、まともな金利を払い、4,000万円を借りることができた。
その翌年には運の良い事に、景気がV字回復し、現在に至っている。

社長になると実にいろいろな事があるという、ちょっと悲しいお話でした。

来ハトメ工業株式会社
代表取締役(EA21代表者)　　来　昌伸

1) 登録事業者の概要

（1）事業者及び代表者名(報告対象組織)

事業者名　：来ハトメ工業株式会社
代表者名　：代表取締役　　来　昌伸

（2）所在地(本社・工場共に下記住所)

〒 340-0822
埼玉県八潮市大瀬203-1
URL　http://www.rai-hatome.co.jp

(1)及び(2)の全組織・全活動をエコアクション21への取組の対象範囲とする

（3）環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者名　：環境管理責任者　　石原　隆雅
連絡先　　：TEL　048(995)5138　FAX　048(996)0580
e-mail　yashio@rai-hatome.co.jp

（4）事業内容

アルミ製コンデンサ部品及びその他の部品類の製造・販売

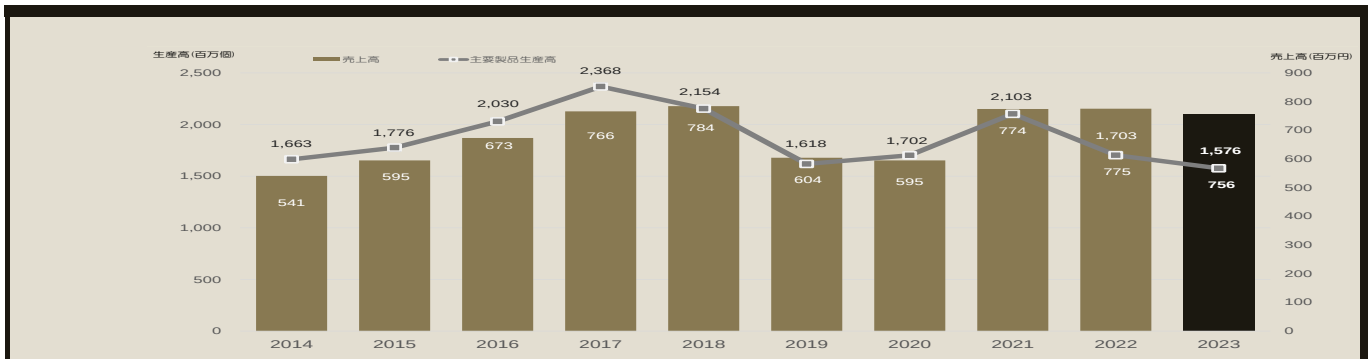
（5）創業年月日

1946(昭和21)年3月6日

（6）資本金

3,000万円

（7）事業規模



項　目	年度										単位
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	
主要製品生産高	1,663	1,776	2,030	2,368	2,154	1,618	1,702	2,103	1,703	**1,576**	百万個
売上高	541	595	673	766	784	604	595	774	775	**756**	百万円
従業員数	38	37	36	37	35	33	33	36	35	**33**	人
事業所延床面積	2,570	2,570	2,570	2,570	2,570	2,570	2,570	2,570	2,570	**2,570**	㎡
事業所敷地面積	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	**2,000**	㎡

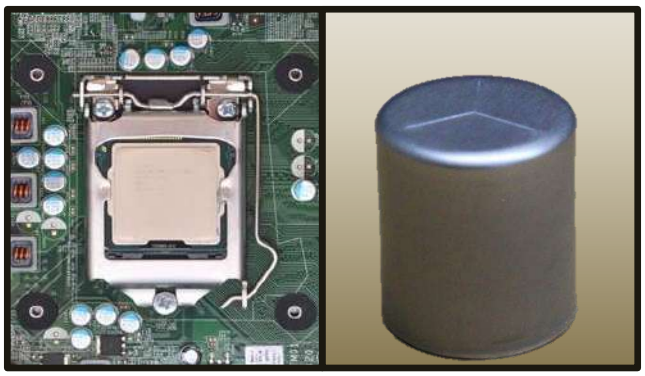
2023年度決算短観及び今後の展望

2023年度は典型的な「後半失速型」の1年でした。前半は前年度を若干上回る水準で推移していたものの、後半に行くにしたがって徐々に失速。特に年が明けて2024年になってからの落ち込みは激しいものがありました。その結果、生産高前年度比7.4%減、売上高も同2.4%減という結果に終わりました。

2024年度の滑り出しは正直最悪のスタートで、自動車向電子部品の在庫調整が思うように進まない影響なのか、その落ち込みは想像以上。現在、大幅な生産調整を余儀なくされています。
しかし、直近ではやや受注の持ち直し傾向がみられる他、かなり有力な新規製品の引き合いもあるなど、明るい材料もいくつか見られます。
情報収集、人材育成などに時間が使える絶好機と捉え、この苦境を乗り切っていければと思います。

（8）当社主力製品並びに主要取引先

● アルミ電解コンデンサ用アルミケース(売上構成比99%)



　我々の豊かな暮らしを支える家電製品や自動車。これらの心臓部とも言うべき基盤部分で、実は当社の製品が活躍していることを、皆様は御存じでしょうか？
　電子基板のあちこちで、独特の存在感を放つアルミ電解コンデンサの骨格部分とも言うべきアルミケースこそ、当社の主力製品！なのです。
主要御取引先：　日本ケミコン株式会社様
　　ルビコン株式会社様　　他

● 建築金物(写真左)、香水プッシュボタン・ネジ(写真右)(売上構成比1%)

　当社が得意とする「アルミ深絞り加工」は、アルミ材料を円筒形に加工する技術。
　このアルミ深絞り加工の応用によって誕生したのが、これらの製品群。
主要御取引先:　カネダ株式会社(建築金物)
　　(有)都プレス工業所(香水)
上記御取引様を通じ、それぞれ、大手メーカー様へ納入しています。

（9）当レポートの報告対象期間

2023(令和5)年3月1日～2024(令和6)年2月29日

（10）当レポートの基準・ガイドライン等

● エコアクション21ガイドライン2017年版(環境省)　及び
● 環境報告ガイドライン2018年版(環境省)

（11）当社環境報告の全体像(3つの社内媒体と充実の外部媒体)

■ 社内媒体

● 紙媒体

● 当社Webサイト

● Youtubeチャンネル

■ 外部媒体

● エコアクション21中央事務局HP

CSR図書館.net

各媒体右端のQRコードより各媒体の当社環境情報をご覧頂けます。是非ご活用ください。

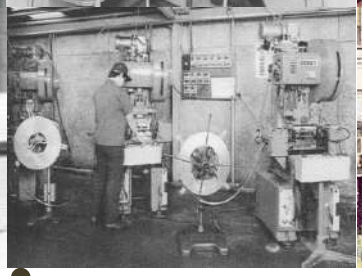
2）沿革(日本の戦後と共に歩んだ当社の78年の軌跡)

1946 ～ 1969

- 東京都荒川区三河島にて「來商店」創業(1946.3)
- 「有限会社來商店」と改組(1952.7)
- 東京都足立区柳原に協力工場設置(1952.8)
- 東京都葛飾区奥戸本町に協力工場設置(1953.10)
  当時の従業員数：4名
- 東京都台東区入谷に移転(1956.6)
  当時の主力製品：時計バンド、磁器バンド
- 「有限会社来ハトメ店」と改称(1962.12)
  このころ、プラグ業界へ進出する
- 電解コンデンサ用アルミケース生産が始まる(1963.10)
  (当時は外注)
- 東京都葛飾区新宿町に「金町工場」設立(1966.3)

1990 ～ 1999

- 本社機能を全て八潮工場へ移管(1990.3)
- 増資。資本金3,500万円に(1996.3)
- 鉄、真鍮から撤退、アルミ材料専門メーカーに(1998.10)



1970 ～ 1989

- 東京都台東区入谷1-33-5に本社移転(1971.4)
- 「来ハトメ工業株式会社」と改組(1974.4)
- 資本金2,500万円に増資(1975.3)

2000 ～ 2009

- 炭化水素洗浄設備を導入(業
- ISO9001:2000認証取得(2005.
- 年間売上高10億円を達成2007

2010 ～ 2014

- エコアクション21認証取得(2010.6)
- 第15回環境コミュニケーション大賞　奨励賞受賞(2012.2)
- 第16回環境コミュニケーション大賞　環境大臣賞受賞(2013.2)
- 書籍掲載(『平成25年版環境白書』(環境省))(2013.6)
- 書籍掲載(『日経エコロジー11月号』(日経BP社))(2013.7)
- 第18回環境コミュニケーション大賞　優良賞受賞(2015.2)
- 第17回彩の国埼玉環境大賞　優秀賞受賞(2015.3)
- テレビ取材(『埼玉ビジネスウォッチ』(テレビ埼玉))(2015.7)
- 環境　人づくり企業大賞2014　環境大臣賞受賞(2015.8)
- 書籍掲載(『中小企業が環境をダシに儲ける本』(日経BP社))(2015.12)

2020 ～ 2023

- 書籍掲載(『環境経営者2020年2月号』(株式会社TKC))(2020.2)
- 環境コミュニケーション大賞環境レポート部門殿堂入り(2020.2)
- 第24回環境コミュニケーション大賞　優秀賞受賞(2021.2)
- 中小企業の中長期の削減目標に向けた取り組み可能な対策行動の可視化モデル事業(環境省)参加(2021.10)
- エコアクション21オブザイヤー2021ソーシャル部門銅賞受賞(2021.2)
- 脱炭素チャレンジカップ2023環境大臣賞グランプリ受賞(2023.2)
- ラジオ取材(『オーステッドpresents Green future for all』(Tokyofm))(2023.3)
- 書籍掲載(『TDB REPORT』(帝国データバンク))(2023.6)

界初)(2004.1)
7)
.3)

- 第19回環境コミュニケーション大賞　優秀賞受賞(2016.2)
- 環境　人づくり企業大賞2015　優秀賞受賞(2016.5)
- 第20回環境コミュニケーション大賞　環境大臣賞受賞(2016.2)
- 国連持続可能な開発目標(SDGs)ケーススタディ(環境省)参加(2016
- 第21回環境コミュニケーション大賞　優秀賞受賞(2018.2)
- 書籍掲載(『隔月刊　地球温暖化』(日報ビジネス社))(2019.1)
- 第22回環境コミュニケーション大賞　環境大臣賞受賞(2019.2)

2015 ～ 2019

4) 当社従業員紹介

(1) 弊社を支える「名プレス工達」～プレスオペレーター～

加藤　直	①	18年目	②	主任
	③	廃棄物(廃アルミ)、環境ボランティア		
	④	フードロスを無くす		
加茂　隆弘	①	18年目	②	―
	③	廃棄物(事業系一般廃棄物)、緊急事態(油漏出訓練)		
	④	運動する		
		節約する		
田辺　栄一	①	18年目	②	―
	③	CO_2(電力)		
	④	レジ袋はもらわない		
		水を大切にする		
		無駄な買い物はしない		
グエン　ヴァン　トゥアン	①	7年目	②	―
	③	CO_2(LPG)		
	④	安全運転をする		
ホアン　バン　ズン	①	3年目	②	―
	③	法規制(騒音測定)		
	④	電気を節約する		
表の見方 氏名	①	勤続年数	②	社内役職
	③	エコアクション21担当項目		
	④	主な私のSDGs(SDGsに関する個人目標※) 期間:2022年3月～2023年2月		主な SDGs アイコン

(2) 金型製造、修理のスペシャリスト達～金型製造・修理～

来　昌伸	①	48年目	②	代表取締役社長
	③	EA21代表者、地域貢献(環境ボランティア)		
	④	コンビニ募金の更なる継続		
		他の機関への募金も検討する		
		不良低減をより一層進化させる		
		脱炭素100%を全社的に展開する		
有山　浩一郎	①	40年目	②	取締役工場長
	③	緊急事態(洪水)		
	④	町会のゴミ0運動に参加する		
来　尊重	①	15年目	②	常務取締役
	③	EA21製造部門責任者、CO_2(ガソリン)、化学物質(潤滑油)		
	④	ハイブリッド車に乗り換える		
		着なくなった服はリサイクルに回す		
		リサイクルで得たお金は他人の笑顔のために使う		
		災害、戦争などで困っている人々への支援をする		
井出　学	①	27年目	②	製造課長　兼　副工場長
	③	廃棄物(不良品発生削減、材料歩留まり向上)、廃ウエス		
	④	色々な人と仲良くする		
		出来る限り環境にやさしいものを使う		
		ごみの分別をする		
山崎　洋幸	①	26年目	②	係長　兼　安全衛生推進者
	③	法規制(労働安全衛生)		
	④	着なくなった服を差し上げる		
		不要になった紙をメモ帳として再利用する		
宮本　哲次	①	18年目	②	主任
	③	水、有害化学物質(啓発教育)、環境ボランティア		
	④	フェアトレードを意識した商品選びを心掛ける		
		水質汚濁防止のためにできることを考える		
		ボランティアに積極的に参加する		

（3）「脱脂洗浄」以上の価値の追求　～洗浄工程～

来　淳一郎

①	27年目	②	専務取締役
③	化学物質(炭化水素)		
④	水の無駄遣いをなくす		
	車のエコ運転を心掛ける		
	連絡を取り合い、無駄な洗浄をしない		

ガヤルラン　ショウジ

①	3年目	②	―
③	CO_2(電力)		
④	節約する		
	プラスチック製品の無駄遣いをしない		
	お風呂の水を洗濯に使う		

(4) 営業、検査から雑用までもこなす「何でも屋」～2F管理部門～

来　満

①	54年目	②	取締役会長　兼　管理部長
③	継続的改善		
④	朝、会社の前のゴミ拾いを継続実施		
	食事のカロリー制限と運動の継続実施		
	土、日に1時間程度、やや速足で歩く		
	昼の弁当、食べない分は他の人にあげる		

来　博行

①	12年目	②	取締役副社長
③	eco検定講座、ペットボトルキャップ収集他		
④	当社業績向上に努力する。		
	今考えている当社の課題を実行に移す		
	1日に1回は全社員と話し雰囲気良化に努める		
	引続きマイカーの燃費検証に努める。		

佐々木　勝

①	31年目	②	管理課長
③	EA21管理部門責任者、緊急事態(避難訓練)他		
④	休日は公共交通機関を使う		
	無駄な買いだめはしない		
	昨年度の個人目標を継続する		

石原　隆雅

①	19年目	②	課長　兼　ISO9001管理責任者
③	EA21環境管理責任者、法規制、生物多様性他		
④	仕事と審査、日々の勉強の三両立		
	1日10,000歩を継続		
	家事で嫁を助けられるようにする		
	世の中の副業人材に勇気を与えられる活動をする		

グエン　ミン　キエン	①	3年目	②	―
	③	法規制(業務用エアコン簡易点検)		
	④	電気を節約する		
		ごみを分別する		
		運動をする		
		酒、タバコの量に注意する		
ホアン　バン　フク	①	2年目	②	主任
	③	廃棄物(紙くず)		
	④	料理や洗濯物のサポート、育児の協力		
		電気と水道の節約を心掛ける		
福田　則子	①	32年目	②	―
	③	CO_2(電力)、廃棄物(分別)		
	④	ガス、水道、電気の節約をする		
		買いだめをしない		
		洗濯機、レンジをエコのものに買い替える		
		自転車で行ける範囲はなるべく自転車か徒歩で行く		
岡本　恵子	①	25年目	②	―
	③	CO_2(電力)、廃棄物(分別)		
	④	形の悪い食品を選んで買う(コストも安いし味も変わらない)		
		男性社員と協力して作業や環境の改善を行う		
		ペットボトルキャップの収集を行う		
		家の庭に緑を増やし育てる		
山田　亜由美	①	25年目	②	―
	③	CO_2(電力)、廃棄物(分別)		
	④	災害に対する備えをする		
		ハイブリッド車にしてCO_2削減		
		冷蔵庫の中を整理して電気代節約		
安田　ジョセフィーナ	①	25年目	②	―
	③	CO_2(電力)、廃棄物(分別)		
	④	電気の節約に心掛ける		
		家庭での節水に心掛ける		

2F管理部門従業員

三輪　千鶴	①	22年目	②	―
	③	CO_2(電力)、廃棄物(分別)		
	④	プラスチック製のものは買わないようにする		
		ペットボトルの本体とキャップを分別する		
		必要なものをなるべく買う、使う		
		人とのコミュニケーションを取れるようにしていきたい		
稲葉　エリザベス	①	21年目	②	―
	③	CO_2(電力)、廃棄物(分別)		
	④	買い物するときはなるべくエコバックを使う		
		電気をこまめに消す		
山本　マリア	①	20年目	②	―
	③	CO2(電力)、廃棄物(分別)		
	④	健康に気を付ける		
		節電をする		
		節水をする		
		身の回りを清潔に保つ		
大小堀　レオニラ	①	20年目	②	―
	③	備品コスト意識改善他		
	④	洗濯できるマスクを使う		
		ガスや水の節約のために毎日料理をしない		
大西　百合子	①	18年目	②	―
	③	CO_2(電力)、廃棄物(分別)		
	④	去年の経験を活かして家庭菜園を継続する		
		犬の散歩。健康づくりを兼ねて積極的に行う		
		ペットボトルキャップの収集		
		子どもの洋服、靴などを必要な人に譲る		
田中　ジェバチキ	①	18年目	②	―
	③	CO_2(電力)、廃棄物(分別)		
	④	家にあるいらない紙を会社のメモ紙として再利用		

坂本ルシィール	①	17年目	②	―
	③	CO_2(電力)、廃棄物(分別)		
	④	頑張って仕事をする		
		工夫して買い物をする		
深井　美樹	①	15年目	②	―
	③	CO_2(電力)、廃棄物(分別)		
	④	節水を心掛ける		
		無駄な買い物を減らしフードロスの削減を目指す		
		エコ運転とCO_2削減の維持		
		健康維持のためウォーキング等の運動で体を動かす		
星野　ウェンディ	①	7年目	②	―
	③	CO_2(電力)、廃棄物(分別)		
	④	マイバックやマイボトルを持ち歩く		
		なるべく車を使わない		
佐藤　ジュリタ	①	7年目	②	―
	③	CO_2(電力)、廃棄物(分別)		
	④	水を大切にする		
		エネルギーを大切にする		
		自然を大切にする		
伊佐　哲子	①	3年目	②	―
	③	CO_2(電力)、廃棄物(分別)		
	④	エコバック、マイボトルを使う		
		募金をする		
表の見方 氏名	①	勤続年数	②	社内役職
	③	エコアクション21担当項目		
	④	主な私のSDGs(SDGsに関する個人目標※) 期間:2022年3月～2023年2月		主なSDGsアイコン

用語解説

「経営責任者のコミットメント」とは

経営責任者(代表者)のコミットメント(誓約、固い約束)、すなわち、経営責任者が自らの言葉で、全ての利害関係者の皆様と交わす固い約束といった意味になります。

このことからも分かるようにこの「経営責任者のコミットメント」は、企業の活動の方向性を決定する、大変重要な事項であるともいえます。

Plan 計画

1) 環境経営方針

当社の社業である金属製品製造には、多量の天然資源やエネルギーの使用が不可欠です。そのため、事業を永続的なものとするためには、これらの持続可能な利用に資するための活動、すなわち、環境保全活動への積極的な取組が大きな鍵を握るものと考えます。

当社は、従業員の自主性に基づく環境保全活動を通じ、環境負荷の低減と御得意先様の満足、更には従業員の成長を実現させつつ、社業を持続可能なものとすることを経営の重要課題の一つとしてとらえ、次の行動指針を定めます。

1. 事業活動に伴う環境負荷を低減し、環境への影響を最小限にとどめるために、次の取組を行います。
   - ① 二酸化炭素排出量の削減（2030年度に2013年度比95%削減／2035年度カーボンニュートラル）
   - ② 分別排出、使い切り等による廃棄物排出量の削減
   - ③ 水使用量の削減並びに雨水の有効活用
   - ④ 不良品の発生削減による材料歩留まりの向上
   - ⑤ グリーン調達の推進
   - ⑥ 有害化学物質の取扱い禁止並びに化学物質使用量の削減及び適正管理
2. エコアクション21の取り組みにより環境への取り組みの継続的な改善を図り、活動の質の維持・向上に努めます。
3. 事業活動に適用される環境法規制を遵守します。
4. 環境教育・訓練の実施により、全ての社員に環境経営方針を周知徹底すると同時に、環境保全に関する知識を高め、社内における環境保全状況の知識・認識の向上を図ります。
5. 生物多様性に関する従業員教育を実施するとともに、その保全と持続可能な利用のための取組を推進します。
6. ボランティア活動等を通じて、地域貢献に取り組みます。
7. 5Sを徹底し、社内美化及びカイゼン活動に取り組むと同時に、事業活動内に潜む様々なリスクやムダの「見える化」とその排除に努めます。
8. 全従業員に対し、SDGs(持続可能な開発目標)の周知及び普及に努めると同時に、継続的にSDGsが掲げる目標実現のための活動に取り組みます。
9. 環境経営方針等、必要な情報を開示します。

2023年1月1日改訂

来ハトメ工業株式会社

代表取締役(EA21代表者)　来昌伸

この「経営責任者のコミットメント」、エコアクション21ガイドラインにおいても、「環境経営方針」として、しっかり要求事項に含まれています。「環境経営方針」とは、代表者が自らの言葉で定めて誓約するもの。用語の違いこそあれど「経営責任者のコミットメント」が意味するものと全く同じです。

ここでは、「環境経営方針」と同様に、代表者の誓約にあたる「品質方針」も併せて掲載します。

2) 品質方針

御得意先様の満足をもって、我社の満足とする。

御得意先様の満足水準の高度化に対しても常に応えられる様、品質マネジメントシステムを確立し、そのレベルの維持向上に対する努力を継続的に続ける。

2013年3月1日

来ハトメ工業株式会社

3) 2023年度の変更点

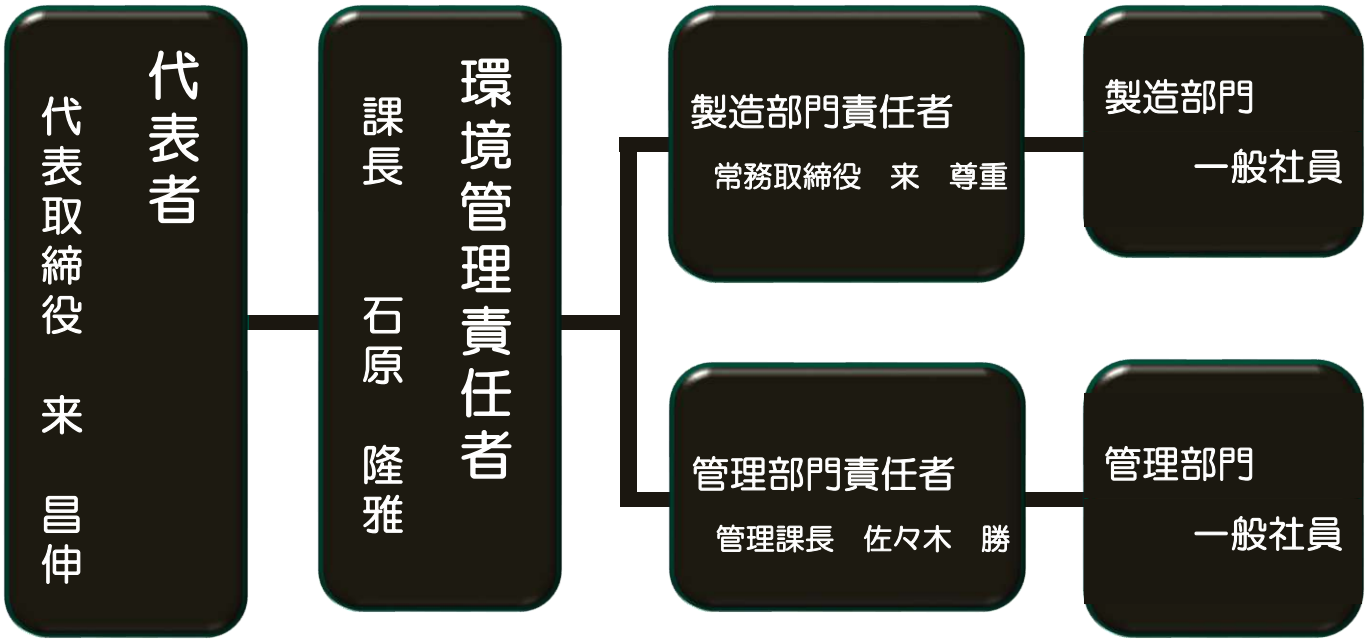
- **環境経営方針**

  2023年度は、環境経営方針の変更はありませんでした。

- **品質方針**

  2023年度は、品質方針の変更はありませんでした。

1) EA21環境経営組織図



2) 役割責任及び権限

役割(職位)	責任　及び　権限
代表者	1 .環境経営方針の制定、誓約及び従業員への周知 2 .環境管理責任者の任命 3 .環境経営資源の確保 4 .是正・予防処置発生時のフォロー、並びに指示 5 .全体の取組状況の評価と見直し、並びに指示
環境管理責任者	1 .エコアクション21活動全般の施策・運用 2 .エコアクション21の実施記録を経営者に報告 3 .各種環境関連文書の記録の管理 4 .環境関連法規の遵守に関する教育 5 .環境経営レポートの作成、公表
製造(管理)部門責任者	1 .環境経営目標に即した自部門の環境経営計画の策定・実施 2 .自部門の環境経営計画の実施状況を環境管理責任者に報告 3 .自部門の一般社員に対する環境教育の実施
(各部門)一般社員	1 .各担当項目の施策策定及び施策の実施 2 .各担当項目の実施状況を環境管理責任者に報告 3 .担当項目以外の環境保全活動への協力 4 .環境関連法規に関する知識習得及びその遵守 5 .活動を通じての部門責任者、環境管理責任者への提案 6 .各家庭における環境教育の実施

3) 2023年度の変更点

2023年度は、以下の変更を実施しました。

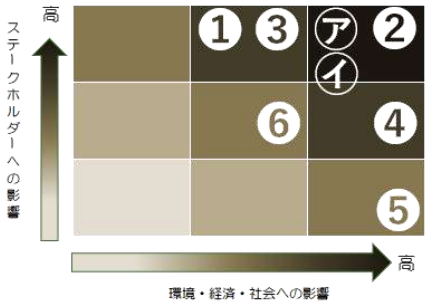
- **製造部門責任者 来　尊重の役職変更(2023年1月1日・主任→常務取締役)**

4) ガバナンス(課題とチャンス、マテリアリティ分析)

① 2023年に抽出された課題とチャンス

	機会(チャンス)	課題(リスク)
内部	① 5S推進 ② 脱炭素化の進捗 ③デジタル化推進 ④人材育成 ⑤営業強化 ⑥環境分野での知名度	① 得意先が少ない ② 5S不十分 ③ 騒音を発生させる ④ コスト意識の薄れ ⑤ 生産能力の限界 ⑥ 火災 ⑦ 設備老朽化 ⑧ コンプライアンス意識の薄れ ⑨ 品質クレーム発生
外部	㋐ SDGs ㋑ サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブへの取組	㋐自然災害の脅威 ㋑豪雨災害の激甚化 ㋒地球温暖化

② ①を踏まえたマテリアリティ分析結果



NO.	環境経営方針
①	7,8
②	1,2,4,7,8
③	4,8
④	8
⑤	2,8,9
⑥	―
㋐	8
㋑	1,2,4,5,8

機会(チャンス)のマテリアル分析

NO.	環境経営方針
①	―
②	7,8
③	3,8
④	1-②,③,④,2,7,8
⑤	2,7
⑥	4,8
⑦	―
⑧	3,5,8
⑨	4,7
㋐	4,8
㋑	1-①,4,8
㋒	1-②,③,④,4

課題(リスク)のマテリアル分析

コーポレートガバナンスへ当社の対応

コーポレートガバナンスとは

「コーポレートガバナンス」。これを日本語に訳すと「企業の統治」。つまり、企業に所属する者自身が、間違いが起こることを防止するためのルールを作り、それを実行することで自らを監視するための取組のことをいいます。

当社の対応

当社のコーポレートガバナンスについて、2022年度までは実際に経営判断を行う経営者の死角を従業員がいかに補うか、という観点で毎年一回「課題とチャンス従業員アンケート」実施し、それを踏まえ経営者が最終的に対応すべき課題、チャンスを決定するという形をとっていましたが、昨年度より従業員アンケートの段階を踏まず、社長が課題とチャンスを抽出し、これを基にマテリアリティ分析を実施し課題とチャンスを決定しました。

「代表者による経営における課題とチャンスの明確化」この言葉通り、より社長の想いが詰まったものになったのでは？そう思います。

5.PDCAで見る環境関連法規遵守の取組

1) Plan 法規制遵守関連の環境経営計画と関連SDGs

取組内容	SDGs	実施責任者
事業活動内に該当する法令の改正状況を年1回調査し、改正あるものについては、法令ファイルの入替を行う。	16	石原　隆雅
工場稼働時の敷地境界における騒音の状況を確認し、記録する。	11 16	ホアン　バン　ズン
第一種特定製品(業務用エアコン等)の簡易点検を行う。	3 16	グエン　ミン　キエン
環境関連法規のための教育又は教育効果確認のためのテストとそのフォローを行う。	4 16	石原　隆雅
職場の危険箇所、機械類取扱い時注意点等に関するアンケートを実施し、改善案を提示する(改善案の実施は5Sにて行う)。	3 4 11 16	山崎　洋幸
労働安全衛生に関する教育を実施する。	3 4 12 16	山崎　洋幸

2) Do 実施 Check 確認 法規制遵守状況のチェック結果

リサイクル関連法の遵守状況

法令名	条・項	遵守事項	チェック結果	遵守状況
自動車リサイクル法	第73条	再資源化預託金等の預託義務	2022年9月に社用車1台廃車。適正に処理が行われたことを確認。 2023年度は事案なし。	遵法
家電リサイクル法	第6条	事業者及び消費者の責務	2021年7月12日特定家電(テレビ4台)処分時にあってはリサイクル券を交付し適正に処分している。 2023年度は事案なし。	遵法
資源有効利用促進法	第5条	消費者の責務	2023年度においてはパソコン処分事案は発生していないが、2013年2月の処分時においては適正に処分及び書類の保管を実施。	遵法
プラスチック資源循環法	第4条第1項 第4条第3項	事業者の責務	プラスチック使用製品廃棄物について、ストレッチフィルム、廃樹脂パレットは再資源化事業者に有価売却、その他廃プラスチック類は分別して産業廃棄物として処理している。	遵法

廃棄物処理法の遵守状況

法令名	条・項	遵守事項	チェック結果	遵守状況
廃棄物処理法 廃棄物処理法施行令	第3条	排出者責任の原則	委託業者の事業系一般廃棄物及び産業廃棄物許可証の写しを受領、確認済。	遵法
	第6条の2 第6項	事業者の一般廃棄物の処理		
	第12条第5項 第12条第6項 令第6条の2 令第6条の2 第4号	産業廃棄物 委託基準	産業廃棄物委託契約が交わされており、委託契約書が保管されている。 併せて、許可証の有効期限が期限内であることを確認。	
	第12条 第2項	事業者の処理 (産業廃棄物 保管基準)	産業廃棄物保管場所の掲示板を設置し、囲いを設けて保管。 保管場所は屋内、床面はコンクリートであり、飛散、流出、地下浸透、悪臭発散の恐れもない。 水銀使用製品産業廃棄物(蛍光灯)については保管場所に仕切りを設置。	
	第12条の3 第1項	産業廃棄物マニフェストの交付	2023年度計5枚のマニフェスト交付事例あり。全て適正に記入され、保管もされている。また、これらの報告については、2024年4月1日、越谷環境管理事務所に送付完了。4月3日受付完了し、控えはファイルにて保管。 マニフェストに関しては2019年分から保管(2018年分は2024年4月1日廃棄)。	
	第12条の3 第6項	産業廃棄物マニフェストの保存		
	第12条の3 第7項	マニフェストに関する報告書の 作成・報告義務		
PCB特措法	第6条	保管等の届出	蛍光灯器具入替時にPCB混入の疑いありの安定器(コンデンサ)を計11個発見。 令和5年度分の保管状況の届出として令和6年4月1日、越谷環境管理事務所に送付完了。4月3日受付完了し、控えはファイルにて保管。	遵法
	第3条 第10条	事業者の責務 期間内の処分	2024年3月21日に搬入荷姿登録完了。収運・処分の委託契約も締結済。現在処理待ち状態。	

典型七公害関連法の遵守状況

法令名	条・項	遵守事項	チェック結果	遵守状況
騒音規制法	第5条	規制基準の遵守義務	年4回敷地境界4か所にて測定を実施。 問題がないことを確認。	遵法
	第6条	特定施設設置の届出	届出済(平成26年4月10日許可番号0030号)。	
振動規制法	第5条	規制基準の遵守義務	未測定(但し、近隣からの苦情は無く、届出時に八潮市役所による検査済)。	遵法
	第6条	特定施設設置の届出	届出済(平成26年4月10日許可番号0030号)。	
八潮市公害防止条例	第17条の1	特定工場設置の許可	届出済(平成22年5月7日許可番号0031号)。	遵法
	第18条の1	特定工場変更の許可	届出済(平成26年4月10日許可番号0030号)。	
	第20条	掲示板の設置	道路沿いの入口に設置されている(写真参照)。	
悪臭防止法	第7条	規制基準の遵守義務	臭気を感じること無く、近隣からの苦情もないことから、当社により住民の生活環境が損なわれていないと判断できる。	遵法

その他の環境関連法の遵守状況

法令名	条・項	遵守事項	チェック結果	遵守状況
浄化槽法	第5条	設置等の届出	届出済。	遵法
	第10条	保守点検及び浄化槽の清掃(浄化槽管理者の義務)	分離ばっ気方式、処理対象21人以上(点検3月1回、清掃年1回義務)に対し 点検年4回 (2023.3/3,6/7,9/5,12/5) 清掃年3回 (2023.8/1,10/10,2024.2/28) 実施。問題無し。	
	第11条	水質に関する検査(定期点検)	2023年11月27日に実施 (判定：適正)	

法令名	条・項	遵守事項	チェック結果	遵守状況
草加八潮消防組合火災予防条例	第43条	防火対象物の使用開始の届出等	炭化水素貯蔵量980ℓのため少量危険物取扱所に該当。八潮市消防本部に届出済。	遵法
消防法	第13条3項	危険物取扱者立会いの義務	2024年4月現在、危険物取扱者免状所持者4名。今後、更に増員予定。	遵法
	第13条の23	保安に関する講習受講義務	2023年度該当者なし。	
危険物の規制に関する規則	第51条第2項	写真の書換え	2023年度該当者なし。	遵法
消防法施行規則	第33条の5			
フロン排出抑制法	第16条第1項	第一種特定製品の管理者の判断の基準となるべき事項	2023年5月8日、8月18日、11月8日、2022年2月21日に簡易点検実施。記録も保管されている。チラー定期点検は2023年6月3日に実施済。	遵法
	判断基準第4項	点検記録の保存	2017年分より全て保管されている(電子保管)	
	第41条	第一種特定製品廃棄等実施者の引渡義務	2022年度業務用エアコン2台の入替を実施。2022年6月28日発行の2台分の回収回収フロン破壊証明書を受領、適正に保管されている(破壊処理量：15.7kg)。2023年度は当該事案なし。	
労働安全衛生法	第12条の2	安全衛生推進者等	2018年12月14日、係長　山崎洋幸が安全衛生推進者養成講習を受講。同日修了。	遵法

企業間の取決め・その他への対応状況

法令名	チェック結果	遵守状況
企業間の取決め(日本ケミコングリーン調達ガイドライン、ルビコン環境負荷物質一覧表) その他(RoHS指令、REACH規則)	禁止物質不使用証明書を全サプライヤーから受領し、顧客宛提出済。 日本ケミコン株式会社様：グリーンサプライヤー認定更新済(有効期限2025年2月25日) ルビコン株式会社様：最新版の製品の含有に関する不使用保証書(RUB-44)を2024年3月21日に提出済。 RoHS指令、REACH規則については各サプライヤーより不使用証明書を受領し、都度顧客宛展開。	遵法

3) Check 違反・訴訟の有無

環境法規等の逸脱はありませんでした。

また、過去5年間にわたって、違反や訴訟も1件も発生しておりません。

4) Check 法規制の遵守状況の評価と次年度以降の取組内容

活動概要	関連SDGs	評価点	寸評、次年度以降の取組内容
法規制改正状況の確認	16	10点	遵守状況チェックと同時に実施。 次年度も同タイミングで実施予定。 入手した環境関連法規については電子ファイルにてPC管理。
騒音測定	11 16	10点	計画通り年4回の測定を実施。 4,7月に規制基準ギリギリ(70db)の箇所があったものの規制値内。 次年度も年4回の測定を継続。
第一種特定製品(業務用エアコン)簡易点検・定期点検	3 16	10点	計画通り簡易点検年4回、定期点検年1回実施。 次年度も法が定める回数の簡易(定期)点検を実施する。
法規制遵守のための教育	4 16	10点	計画通り年5回+期末テスト(生物、法規制ミックスにて出題)の計6回実施。 次年度も年6回の実施を計画。
職場の危険箇所、機械類取扱い時注意点等に関するアンケートの実施と改善案の提示	3 4 11 16	6点	5グループ中3グループで危険箇所の改善の実施実績あり。 次年度以降も5Sの取組の中で危険箇所の改善に取り組む。
労働安全衛生教育の実施	3 4 12 16	10点	計画通り年2回実施。 次年度も年2回の実施を計画。

6) Act 法規制遵守の取組に関する代表者の評価・指示

法規制遵守の取組に関しては、大変満足すべき結果で、良かったと思います。
但し、今後危険箇所についての取組をより前進させたいと思います。

来ハトメ環境トピックス2023

① 苦節（？）7年　取組の先に得たものとは？

～2023年度「私のSDGs」ふり返り(個人の取組）編～

先駆者として駆け抜けた7年間

当社がSDGsへの取組を始めたのは2017年10月、当時のSDGsの知名度たるや惨憺たるもので、子供に話せばチーズの一種と勘違いされる始末……。とても今では考えられませんが……。
そんな海のものとも山のものともつかぬSDGsへの取組を半信半疑で始めた(始めさせられた)当社従業員達。自らの日常でSDGsを使い、SDGsを知り、その効果を実感するということを狙って「私のSDGs」への取組をそれからずっと続けてきました。先駆者として従業員全員でSDGsと共に駆け抜けた7年間、取組を通じ当社従業員は何を得て、どのように変わったのか――？ここでは2023年度の「私のSDGs」をふり返りながら、長期間SDGsへの取組を続けた者にどんな変化が現れるのかを披露したいと思います。

2023年度「私のSDGs」ふり返り結果

まずは年間の全従業員の「私のSDGs」の目標数(アイコンベース)の合計をご覧頂きましょう。
右の通り取組数はさらに増加し、2023年度は295個、実に6年連続で過去最高を更新！という結果となっています。

年度	アイコン数
2018	160
2019	177
2020	236
2021	266
2022	277
2023	**295**

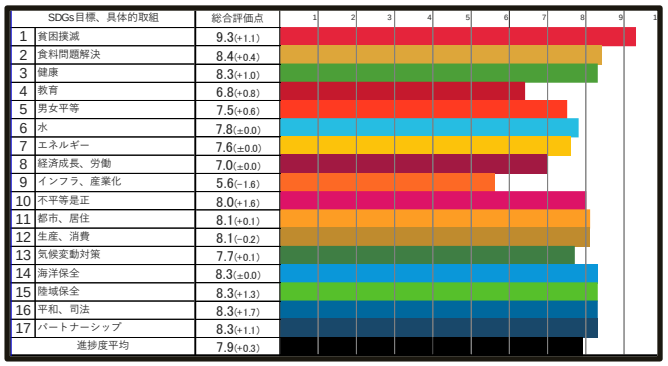
SDGs取組数(アイコンベース)の推移

「大事なのは取組の数よりも中身でしょ？」ごもっともでございます。それでは、その肝心な中味の部分は、果たしてどうなっているのでしょうか。そこには、単純な数だけでは語りつくせないとても興味深い大きな変化をいくつも垣間見ることができたのです。

変化①　個人戦から団体戦へ　地球にやさしい人材へと成長した

「マイバックを使う」、「節水する」……。取組を始めた当初はこうした目標が大半を占めていました。もちろん、これらも大変意味のある取組であることには違いありませんが、年数を重ねていくうちにある変化が起こってきたのです。
「ボランティア活動に参加する」、「寄付をする」、「男性社員と協力して〇〇する」……。お分かり頂けたでしょうか。取組当初は「(自分のために)〇〇する」という活動が大半だったのに対し、現在は「(誰かのために)〇〇する」という活動が目に見えて増えてきているのです。ボランティアや寄付などの関係するゴールが複数にまたがるものが多く、同じ一つの取組でも複数のアイコンが付くことにその違いがあります。
複数のアイコンが付く活動については、別の言い方をすれば世の中にとって非常にインパクトのある活動とも言うことができるでしょう。
7年という時の中で、SDGsを通じて多くの人が「より地球にやさしい人材」に成長したということができるのではないでしょうか。
個人的には、大いに誇ってよいのでは、と思います。

変化②　家族、同僚、全ての人々へのやさしさあふれる人材へと成長した



2023年度「私のSDGs」アイコン毎の評価点集計結果

次にご覧頂くのは、アイコン毎の評価点の集計結果。全体の平均が昨年度から0.3点上がり7.9点だったのはひとまず置いておいて、ゴール毎の評価点を見てみると、まず一つ気付くのが8(経済)、9(産業)の評価点が他のゴールと比べて低いこと。この辺りは悲しいかな現在の当社の状況ゆえ、といったところなのでしょう……。
一方、1(貧困撲滅)、10(不平等是正)、17(パートナーシップ)については軒並み1点を超える大幅増。募金やパートナーへの協力、他者とのコラボなど、他者に目を向ける、他者のために行う取組については、しっかりと取組むことができたことを良く表しているのだと思います。
これこそ、SDGsを通じて自身のパートナーや家族、そして世の中の全ての人へのやさしさあふれる人材へと変貌した証拠、と言えるのではないでしょうか。
SDGsのゴールは2030年。総括するのはまだ早いのかも知れませんが、7年間のSDGsへの取組を通じて多くの人が地球に、そして他者にやさしい人材へと変わった！ふり返り結果がそう教えてくれているように思います。

6.PDCAで見る緊急事態の想定とその対応策

1) Plan 想定される緊急事態

当社が2023年3月現在想定していた緊急事態は以下の3点です。

- (1) 潤滑油の漏洩
- (2) 地震の発生
- (3) 火災の発生
- (4) 洪水(気候変動適応策も踏まえた活動)

2023年度は、上記想定に基づき、下記3)の通りの訓練を実施しました。

2) Plan 環境経営計画とSDGs

NO.	取組内容	SDGs	実施責任者
①	火災、地震避難訓練の事前準備及び実施指揮と事後のフォローを行う。	4 11	佐々木　勝
②	製造現場の油漏出訓練の事前準備及び実施指揮と事後フォローを行う。	4 6 11	加茂　隆弘
③	洪水を想定した訓練の事前準備及び実施指揮と事後のフォローを行う。	4 8 9 11 13	有山　浩一郎
④	排水ポンプの点検を行う。	8 9 11 13	有山　浩一郎
⑤	洪水発生時の被害軽減のための改善箇所を特定し、改善を指示する。	8 9 11 13	来　満 来　昌伸
⑥	ハザードマップを各階に掲示し、災害危険性、避難場所等の情報を共有する。	4 8 9 12 13	有山　浩一郎
⑦	火災、地震時の心構えに関する教育を実施する。	4 11	佐々木　勝
⑧	災害用物資倉庫の管理を行う。	3 6 11	佐々木　勝

3) Do 緊急事態の対応及び訓練状況

洪水を想定した訓練(土のう積み訓練)(2023年6月30日実施)

梅雨の晴れ間を利用して実施した通算3回目の土のう積み訓練。

今回は、あえて土のう積み訓練の指揮を務め、社内で最も経験豊かな工場長不在のタイミングで実施。
指揮者不在でも確実に実施できるかどうかを確かめながらの訓練となりました。

参加者からの感想

- 手際は訓練の度に良くなっているが、指揮者(工場長)不在であったため、多少まごつく部分は見られた。
- 新しい土のうを補充したため、安心感が増した。

地震・火災時避難訓練及び消火訓練(2023年10月31日実施)

コロナ5類移行初の避難訓練及び消火訓練。毎年、同じ動作の反復訓練にはなりますが、その甲斐あって（？）毎年数回発生する地震の際には全員迷わず中庭に避難できるようになっています。これも避難訓練の一つの成果、なんでしょうね。

潤滑油の漏洩時訓練(2023年11月17日)

毎年様々な漏洩原因を想定して実施している潤滑油の漏洩時訓練。今年度は製品受け用コンテナの破損による潤滑油漏洩を想定し、コンテナ補修の訓練を実施しました。

補修に使用するコーキングガンは、当社では使用頻度が非常に少ない道具。それだけに、今回の訓練はとても意味のあるものとなりました。

4) Check 緊急事態の想定・訓練の評価と次年度以降の取組内容※1

※2NO.	SDGs評価点	寸評、次年度以降の取組内容
①	10点	計画通り実施。 次年度も避難訓練と消火訓練をセットとした反復訓練を計画。
②	10点	計画通り実施。 次年度も今年度同様漏洩箇所を選定の上実地訓練を計画。
③	10点	計画通り実施。 次年度も土のう積み訓練を実施予定。
④	10点	2023年5月に実施。 次年度も梅雨前の実施を計画。
⑤	10点	2024年2月に2Fフロアの雨漏りの補修を実施。 次年度も修繕箇所があれば即座に実施する。
⑥	10点	製造部門(工作室)管理部門(入口の掲示板)に掲示完了。 掲示はそのまま継続する。
⑦	10点	年2回計画、計画通り実施。 次年度も年2回の実施を計画。
⑧	10点	4月に在庫及び賞味期限の確認を実施。新たな補充は実施せず。 次年度も同様の確認を実施。

※2　NO.①～⑧は前頁(23頁)の①～⑧に対応しています。

5) Act 見直し 緊急事態の想定・訓練に関する代表者の評価・指示

今後も継続して訓練し、予期せぬ事態に素早く対応できるよう、頑張りましょう。

7.数字で見る2023年度環境負荷の全体像

1) Check 過去5年間の環境負荷の実績

項目(単位)		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
CO_2排出量	CO_2排出量(kg-CO_2)※1	9,856	8,585	11,390	9,507	5,203
	電力(kWh)	667,351	513,107	525,194	625,026	561,300
	灯油(ℓ)※2	1,815	1,488	2,066	1,783	448
	LPG(kg)	483	396	454	483	416
	ガソリン(ℓ)	1,435	1,360	1,437	1,559	1,224
廃棄物	事業系一般廃棄物(kg)	18,338	1,058	1,067	3,296	1,278
	産廃(廃ウエス)(kg)	2,000	2,000	1,400	1,600	1,200
	紙くず(リサイクル量)(kg)	2,920	1,930	1,960	2,550	1,950
	廃アルミ(有価物)(kg)※3	311,780	229,080	234,250	279,950	227,440
水	上水(㎥)	437	374	371	451	409
化学物質	炭化水素(ℓ)※4	21,400	14,000	13,000	15,400	15,800
	潤滑油(ℓ)※5	28,000	20,000	22,000	27,000	22,000
グリーン調達率(%)		84.44	74.69	71.98	77.74	66.27

※1　二酸化炭素排出係数：出光グリーンパワー(プレミアムゼロプラン(メニューA)の令和4年度調整後排出係数(0.000kg-CO_2)を基に算出しています。
※2　2022年9月に灯油暖房器を撤去し、灯油使用は終了しました。そのため、2023年度以降の灯油使用はありません。
※3　廃アルミ(有価物)は、環境経営目標「不良品の発生削減による材料歩留まりの向上」の評価項目になります。
※4　炭化水素の物品名は「ソルトーワP-1」(第2石油類　非水溶性)になります。
※5　潤滑油の物品名は「ラタックコンパウンド」(第4石油類)になります。
項目毎の基準年度は、2)環境目標の達成状況を御参照下さい。

2) Check 2023年度の実績と目標達成状況

二酸化炭素排出量に関するもの

項目	単位	基準年度	目標値	実績値	達成状況
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO_2)	2013年度	120,742	3,272	達成
電力使用量	※1洗浄袋数(調整)原単位(kWh/袋)	2015年度	19.37	15.54	達成
LPG使用量	稼働日原単位(kg/稼働日数)	2010年度	2.65	2.05	達成
ガソリン使用量	総量(ℓ)	-	現状把握	785.60	-

廃棄物排出量に関するもの

項目	基準年度	単位	目標値	実績値	達成状況
事業系一般廃棄物	2014年度	総量(kg)	1,651	1,063	達成
産廃(廃ウエス)	2017年度	総量(kg)	1,728	1,019	達成
紙くずリサイクル率	2010年度	※2紙くず(kg)/ゴミ総量(kg)X100	37.64%	45.97%	達成
廃アルミ(有価物)	2010年度	※1洗浄袋数(調整)原単位(kg/袋)	8.44	6.22	達成

水使用量

項目	基準年度	単位	目標値	実績値	達成状況
水	2015年度	稼働時間原単位(㎥/稼働時間(h))	0.206	0.259	未達

化学物質使用量に関するもの

項目	基準年度	単位	目標値	実績値	達成状況
炭化水素	2017年度	洗浄袋数原単位(ℓ/袋)	0.567	0.52	達成
潤滑油(ラタック)	2010年度	※1洗浄袋数(調整)原単位(ℓ/袋)	0.81	0.62	達成

グリーン調達

項目	基準年度	単位	目標値	実績値	達成状況
グリーン調達	–	グリーン調達率(%)	現状把握	86.91%	–

※1洗浄袋数(調整)原単位とその算出方法(電力、ラタックの原単位算出に使用)

手順1.　当月洗浄袋(ロット)数÷当月製造数=製品1個アタリ袋数を計算する　-①
手順2.　調整(1)の値を計算する　　調整(1)　=　①　÷　(基準年洗浄袋(ロット)数　÷　基準年製造数)　-②
手順3.　調整(2)の値を計算する　　調整(2)　=　{1-（②-1)}　X　当月使用量　-③
手順4.　調整後原単位を計算する　　調整後原単位　=　③　÷　当月製造数

※2ごみ総量(kg)：　事業系一般廃棄物(2023年度：1,063kg)、産廃(廃ウエス)(2023年度：1,019kg)、紙くず(2023年度：1,770kg)の合計量(3,852kg)となります。

表中赤太字の項目は、目標値未達の項目を表します。

3) Check 2023年度マテリアルバランス

インプット	上:使用(排出)量 下:費用	プロセス	アウトプット	上:処分(売却)量 下:費用 黒:収入 赤:支出
アルミ材料	541,437kg 488,983千円	原材料調達	製品	329,177kg 698,920千円
			アルミスクラップ	212,260kg 57,295千円
電力	530,047kWh 15,271千円	製造	CO_2	3,272kg-CO_2 — 千円
LPG	483.27kg 156千円		事業系一般廃棄物	1,063kg 47千円
ガソリン	785.60ℓ 133千円		産廃(廃ウエス、廃油)	1,019kg 73千円
炭化水素	14,600ℓ 4,380千円		廃プラスチック類	10kg 14千円
潤滑油	21,000ℓ 9,927千円		紙くず	1,950kg 0千円
上水	469㎥ 102千円		廃蛍光管	8kg 5千円
			排水(浄化槽維持費用)	469㎥ 72千円
		売却	樹脂パレット・樹脂製廃通函	666kg 6千円
			ストレッチフィルム	57kg 0.5千円

二酸化炭素排出量（目標値：総量（kg-CO_2)

Plan 中長期環境経営目標

(単位：kg-CO_2)

年度	目標値	基準年度比
2023	120,742	63.0%削減
2024	104,425	68.0%削減
2025	88,108	73.0%削減
2026	71,792	78.0%削減
2027	55,475	83.0%削減
2030	**16,317**	**95.0%削減**
2035	カーボンニュートラル	

基準年度	2013年度
※基準年度実績	326,337kg-CO_2

※CO_2排出量の基準年度と長期目標設定について

2021年4月22日開催の米国主催気候サミットにおいて、2050年カーボンニュートラルと整合的で野心的な目標として「2030年度に温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指すこと、さらに、50%の高みに向け挑戦を続ける」という日本の新たなCO_2削減目標が公表されました。
それを受け、当社でも2022年4月に「2030年度に2013年度比95%削減、2035年カーボンニュートラル」という更に野心的な目標に改訂。目標達成に向けての挑戦を続けています。

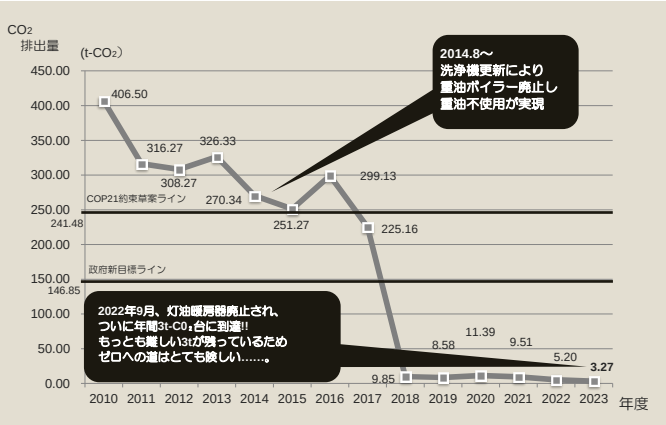
中長期環境経営目標達成のために

灯油不使用が実現し、残るはガソリンとLPGのみ。これらの電動化が実現できれば夢のカーボンニュートラル達成!しかし、その前途は実に多難、なのです……。
まずガソリン。これについては残る1台の社用車が電動化すれば達成ですが、社用車の購入時期を考えると、次の更新は2030年前後。また、もし社用車が増車となった場合、単純に増加する懸念があるほか、これらの更新に伴い電動車が選ばれるかどうかも未知数……。
また、フォークリフトは得意先からの貸与品なので、変更にあたっては得意先の協力が必須。金型焼入れの電化に至っては製造方法自体の変更も伴うため、金型の強度を保てるかどうかの検証はもちろんのこと、顧客の変更許可を得ることも必要となってきます。
こうした困難を一つずつクリアした先にあるカーボンニュートラル。2035年までにその高みに到達すべく、これらを一つずつクリアしていく。それしかありません。

Do 実施

弊社におけるCO_2の具体的な排出源は、エネルギー(LPG、ガソリンの2項目)使用に伴うものとなります(電力はグリーン電力使用のためCO_2排出源とはなっていません)。
それぞれの具体的な取組・結果及び分析については、後の頁にて詳述しますので、御確認下さい。

Check 確認 二酸化炭素排出量の推移と2023年度の実績



年間を通じて灯油不使用となった初年度にあたる2023年度。集計してみると何と3t-CO_2台に突入!取組初年度から実に99%削減を達成するに至りました。
脱炭素は削減もそうだが、その維持もなにげに難しい。今までの脱炭素化への取組の中で実感したことを簡単にまとめると、その一言に尽きます。従って、上記に示した具体策を1つずつ実現する「攻め」の部分と、今までの削減施策の維持する「守り」の部分の両方を常に意識しながら、一歩ずつ高みを目指していくこととします。

Act 見直し 二酸化炭素排出量削減に関する代表者の評価・指示

目標実現に向け、全員で知恵を出し合いながら、更に前進し続けましょう。

レポートを読み解くためのキーワード
当社独自の評価基準「SDGs評価点」とは？

SDGsで環境経営を総点検

当社環境経営レポートでは、2018年版より、「取組状況の確認及び評価(Check)」の手法として「SDGs評価点」なるものを採用しています。
これは、SDGsの観点から当社の環境経営に関する取組状況を点数化することと、当社の取組がSDGsをどれだけ満たすものとなっているのか、数値的に可視化することを狙い、設定したものです。
年間の環境活動の状況をいざ評価しようにも、数字で表せる使用(排出)量ならまだしも、教育・訓練や削減に繋がる活動の実施状況などについては、評価が難しいというのが、従来の悩みでした。
そこで、環境経営計画策定時に全ての計画をSDGsと紐付けし、年度終了時に独自基準に基づきすべての計画を点数化。そうすることで、今までどうしても表現が難しかった数字に表せない活動の取組状況を数字で表現したり、年度毎の比較をすることまで可能となりました。また、SDGsに紐付けした結果をグラフ化することで、現在の活動がSDGsをどれだけ満足する活動となっているのか、欠けている部分はどこなのかというところまで、「見える化」できてしまう。いいことづくめの評価方法ではないののかな?と考案者として自画自賛している次第です。
このようにいいことづくめ(?)の「SDGs評価点」。これが今後世の中に広まるかどうかはひとまず置いておいて、その評価基準は、次の通りです。

「SDGs評価点」評価基準

環境関連法規(17～20頁)
10点満点。遵守事項各項目につき遵守されていないものがあった場合、1項目ごとに△1点。
また、毎月確認が必要な項目については、年間完全達成で満点、達成できない月があれば1点減点とする。

緊急事態の想定とその対応策(21、22頁)
10点満点。2020年度年初に予定した訓練3項目(避難訓練、油漏出訓練、八潮市消火訓練)について、実施した場合は10点、未実施の場合は理由の如何を問わず0点とする。

項目毎の取組(数値目標)(27～41頁)
目標達成率を点数とする(但し、100%以上10点(満点)、小数点以下切捨て)。

項目毎の取組(教育訓練)(17～52頁)
各教育訓練項目それぞれ10点満点。実施回数にて採点し、計画通り実施の場合は満点(10点)、未実施の場合は、未実施1回毎の減点＝10÷実施予定回数(小数点以下切上げ)に基づき減点する。

項目毎の取組(数値以外の目標)(27～52頁)
実施の場合は満点(10点)、未実施の場合は理由の如何を問わず0点とする。

補足
1つの環境活動計画につき2つ以上のSDGsが並存しているものについては、どちらも同じ点数であるものとして評価する。

当社環境経営の気になる最新情報は
リニューアルされた当社ホームページで
今すぐチェック!!

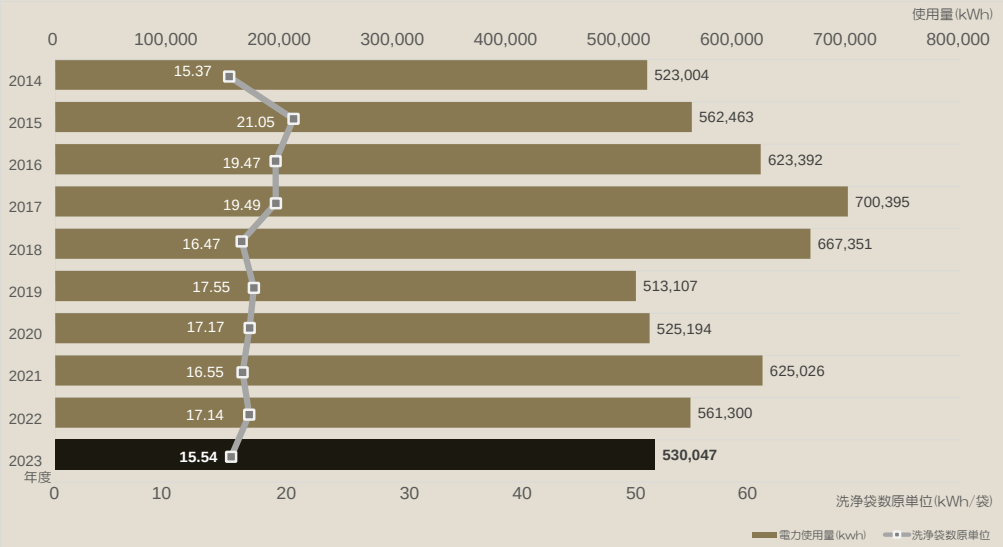
当社ホームページＱＲコード

電力使用量(目標値：洗浄袋数(調整)原単位(kWh/袋))

Plan Do Check 中期環境経営目標・2023年度環境経営計画及び実施状況

基準年度	2015	中期環境経営目標					
	年度	年度	2023	2024	2025	2026	2027
基準年度	21.05	目標値	19.37	19.16	18.95	18.73	18.52
実績	kWh/調整袋	基準年度比	8%削減	9%削減	10%削減	11%削減	12%削減

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
使用量記録・月毎の見直し (田辺　栄一)	12 13	10点	原単位目標達成率124.63%(530,047kWh) 次年度は基準年△9%を目標とする。
電力関連の教育実施 (田辺　栄一)	4 13	10点	計画3回、実施3回(計画通り)。 次年度も年3回の実施を計画。
設備の情報収集・提案等 (田辺　栄一)	7 12 13	10点	センサーライトに関する提案あり。 次年度も継続。
デマンド管理(290kW) (田辺　栄一)	13	10点	286kW(目標達成だが昨年比+9kW)。 次年度目標値も290kWとする。
製造現場照明設備更新 (田辺　栄一)	7 12 13	10点	2023年7月に会議室、2024年2月に製造現場の更新完了。計画通り実施。
デマンド抑制策検討及び実施 (来　満)	8 9 12 13	10点	デマンドコントローラーを参考に生産調整実施。 次年度も継続実施する。
温・湿度の記録 (田辺　栄一・斉藤　進・安田・ジョセフィーナ)	13	7点	洗浄場で記入未実施日発生。 次年度も実施確認強化の上継続実施。



使用量は約5.5%、原単位約10%とそれぞれ減少。特に原単位が大きく減少。効率性が改善されていることは評価できます。しかし、デマンドについては夏場に若干増加。急激に暑くなるタイミングと休み明けの早朝は特に注意する必要ありと考えます。LED化については予定通り実施。次年度は当社調達先以外の電力事業者の調査を実施します。

原単位算出式：※基準年度の洗浄袋数を基に調整した電力使用量(kWh)÷洗浄袋数(袋)
※原単位計算方法については26頁「※1洗浄袋数(調整)原単位とその算出方法」をご覧ください。

Act 電力使用量削減に関する代表者の評価・指示

2年連続で削減を達成しました。大変皆努力したと思います。それとも不景気が原因かもしれませんね。来年を見てみましょう。

その他のエネルギー使用量(目標値：各グラフ上部に記載)

Plan Do Check 中期環境経営目標・2023年度環境経営計画及び実施状況

LPG

基準年度	2010	中期環境経営目標					
	年度	年度	2023	2024	2025	2026	2027
基準年度	3.01	目標値	2.62	2.59	2.56	2.53	2.5
実績	kg/日	基準年度比	13%削減	14%削減	15%削減	16%削減	17%削減

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
使用量記録・月毎の見直し (グエン ヴァン トゥアン)	12 13	10点	原単位目標達成率127.64%(476.30kg) 次年度は基準年度△14%を目標とする。
夏期の湯沸器使用ルール啓発・実行 (グエン ヴァン トゥアン)	4 13	10点	計画通り実施。 来年も継続。
冬期の湯沸器使用ルール啓発・実行 (グエン ヴァン トゥアン)	4 13	10点	計画通り実施。 来年も継続。
フォークリフトの電化検討 (来 昌伸、有山 浩一郎)	7 12 13	0点	計画するも実行できず。 あきらめずに電化の提案は継続していく。

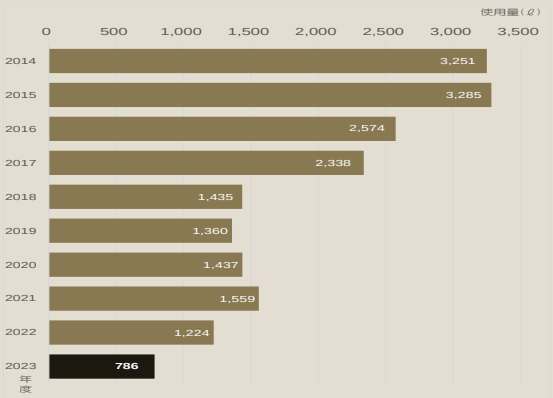
ガソリン

基準年度	-	中期環境経営目標					
	年度	年度	2023	2024	2025	2026	2027
基準年度	現状把握	目標値	現状把握	2023年度の結果を基に目標を策定			
実績	ℓ/月	基準年度比	-				

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
使用量記録・月毎の見直し (来 尊重)	12 13	―点	現状把握に努め、結果785.6ℓ。 次年度は2023年度実績比1%削減を目標とする。
実車によるエコドライブ講習実施 (来 尊重)	3 4 7 13	0点	計画するも実施できず。 次年度こそ実施する。
エコドライブ教育の実施 (来 尊重)	3 4 7 13	10点	計画4回、実施4回(計画通り実施)。 次年度も4回/年の実施を計画。

ガソリン使用量

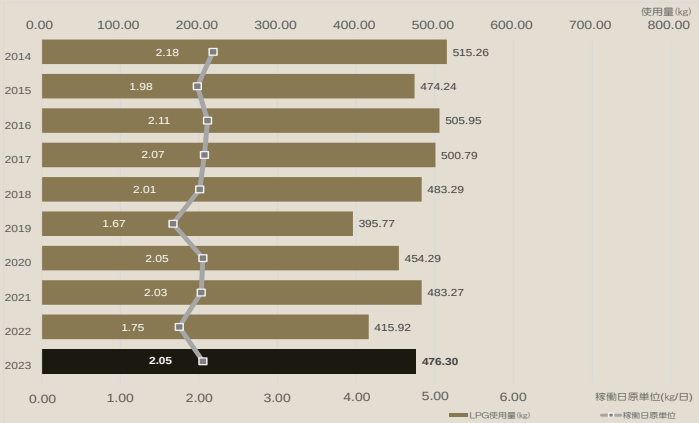
目標値：総量(ℓ)



前年度比約35%減。年間通じて社用車2台体制だった最終年(2021年度)比では約49.5%減であり、1台減少分がそのまま減ったという印象。
ガソリン削減には継続した意識の定着が何より効果的。地道ではありますが現状の教育をあきらめず続けていくことが結果に繋がるものと考えます。

LPG使用量

目標値：稼働日原単位(kg/日)



使用量約14%、原単位17%と共に増。結果から使用に関する意識低下がみられるため、特に夏季の不使用徹底、冬期の使用に関する啓発を今一度強化します。
給湯設備、フォークリフトについては電化可能な部分であるということも常に頭に入れておく必要あり。電化の提案は引き続き粘り強く続けていきます。

Act その他のエネルギー使用量削減に関する代表者の評価・指示

ガソリンに関しては、社用車交換の際に、電動車を検討する予定です。
又、手洗いの際、より省エネを意識した再教育の必要があると考えます。

来ハトメ環境トピックス2023
②　「SDGsが紡いだ縁」で新たな取組に挑戦
～中小企業診断士と協働で挑戦したCFP算定～

SDGsの思わぬ効能

「SDGsに取組んでよかったことは？」。ちょっとだけ早くSDGsへの取組を始めた当社。その効果が気になるのでしょうか、以前からよくこんな質問を頂くことがあります。この質問に対する私の答えは、ズバリ
「中小企業診断士をはじめとする士業の先生と繋がることができたことです！」
2019年9月9日、早朝に台風15号(後に令和元年房総半島台風と命名)が直撃し、首都圏の交通網が完全にマヒしたその日、13時から大宮市で開催された「令和元年度第一回環境ビジネスセミナー」。自社のSDGsの取組についての講演依頼を頂いていたこともあり、運行再開した路線をネットで調べながらなんとか会場まで到着。
「こんな状況じゃ、聞きに来られる方なんてほとんどいないだろうな……。」
ところがどうでしょう。そんな私の想いとは裏腹に、セミナー開始に近付くと、あれよあれよという間に席が埋まっていくではありませんか。この時期は丁度SDGs熱が高まり始めた頃。乱れに乱れた公共交通網をものともせず会場入りした熱心な方々に支えられ、無事当日の大役を果たした私。会場を後にしようとしたその時、とある協会員の集団が、私の方に歩み寄ってこられたのです。
その集団こそ「一般社団法人　埼玉県中小企業診断協会」の皆様。中小企業診断士、名前こそ「中小企業」とありますが、普通にしていたら中小企業の一従業員に過ぎぬ私などとは、全く縁もゆかりもない存在ともいえる方々です。そんな錚々たる先生方より丁寧な挨拶と心のこもった御感想を頂戴し「もしかしたらSDGsって自分の想像以上にすごいものなのでは？」と感じたことは、言うまでもありません。

SDGsの持つパワーたるや恐るべし、これを機に診断士の方々との交流が始まりました。協会の調査事業の案内やセミナーの講演依頼を頂戴するなど、協会が主催すする様々なイベントへの参加の機会を頂いたり、「経営革新計画」や「事業継続力強化計画」など、当社の本業に深く関連する御指導を頂いたり、補助金の相談に乗って頂いたりと、その親交はどんどん太くなっていきました。セミナーや勉強会に参加させて頂くたびに交換する名刺の数も増えていきました。

ここまで聞けば、嫌でもSDGsの効能、御理解頂けるのではないでしょうか。あ、このトピックはSDGsの効能の話ではなかった！今からお話するのは、こんな診断士との縁がもたらした2023年度の当社の取組。引続きお付き合いください。

診断士からのCFPへの誘い

「御社をモデル企業として、カーボンフットプリント(以後：CFP）の算定をしてみたいのだが、協力して頂けないでしょうか。」
2023年4月、私宛に頂いた突然の電話。ちょうどその頃、エアコン更新直後で、脱炭素関連に関する次なる施策探しの真っ最中。お金さえかければ出来る施策はいくつかあれど、何にしても立て続けはちょっと難しい……。そんな中にあってこれを受けない手は絶対にない！もちろん、二つ返事でお受けさせて頂きました。
その電話の主こそ中小企業診断士の柴田先生。SDGs以来、診断士の中でも特に懇意にさせて頂いた診断士の内の一人で、その一年前から、自らが主宰される診断士向けのカーボンニュートラル研究会へも参加させて頂くなど、何かとお世話になる機会が多い、そんな方でした。

かくして2023年4月、柴田先生を中心に当社製品のCFP算定に挑戦するというゴールを掲げ、「CFP算定タスクチーム」のミッションが動き始めました。製品データ、生産データ及びサプライヤーから収集したCO_2に関するデータをタスクチームに提供するのが私の役目で、その情報を基に、柴田先生をリーダーとするCFPタスクチームの皆様がCFPに変換していくという一連の過程に、私も立ち会わせて頂きました。
先にも申し上げた通り、タスクチームの皆様は私を除いて全員現役の診断士または企業内診断士。多忙な日常業務の傍ら、当社のCFP算定に挑戦して下さいました。そのような状況ゆえ、打合せの中心は夜間のリモートミーティング。

CFP算定タスクチームの有志の皆様と(2024年1月撮影)
(右から　武田先生、石原、柴田先生、黒澤先生、勝海先生)

毎回熱のこもったミーティングが展開され、終了時刻が22:00を回ることもしばしばでした。
「最終的には、一人でCFP算定できるようになってくださいね。」正直この分野ではドシロウトの私に対し、柴田先生をはじめCFP算定タスクチームの諸先生方は毎回「CFP実践ガイド」(環境省・経産省)の内容を分かりやすくレクチャーして下さいました。その甲斐あって、こんな私でもCFP算定に必要不可欠な「ライフサイクルフロー図」や「算定シート」の作成、排出係数表の参照方法などなど、CFPの技術的な部分を何とか理解することができました。まさに大収穫！と言ってよいでしょう。
そんな先生方の熱心な御指導により、7月末にはCFPの算定が無事完了。「レポートのネタ1つ確保！」と安堵に浸っていた私をよそに、埼玉県中小企業診断協会CFP算定タスクチームのこのチャレンジは、思わぬ方向に発展していくこととなるのです。

想像を超えた「注目の的」に！！

「非常に参考となるトライアルであり、関心が高い。」2023年8月、CFP算定タスクチームの柴田先生、武田先生、池田先生と共に経産省関東経済産業局を訪問し、CFP算定の報告をさせて頂いた際に頂戴した言葉です。
「想像以上のなかなかの賛辞！だが、このCFPの取組、算定結果が出たところでまずは打ち止めだろう……」
席上、そう思いながら経産局課長の御感想に耳を傾けていた私。しかし、そんな想像と大きくかけ離れた未来が、その後待ち受けていたのです……。

まずは9月、公益財団法人埼玉県産業振興公社より今回の成果報告を兼ねて講演してほしいとの御依頼を頂きました。これだけでも予想外というには十分すぎる結果と言えましょうが、なんとこの話、これだけでは終わらなかったのです。
「広島県の方から埼玉の講演と同じ内容でお願いしたい、という依頼を頂いたんですけど、石原さん、広島まで行くことできます？」
何とも耳を疑うようなお話。柴田先生から唐突に頂いたこんな内容の電話に驚きはしたもののもちろん快諾。かくしてこのカーボンニュートラル算定トライアルは、当社並びに私に900㎞離れた広島県での講演の機会までもたらしてくれることとなったのです。

「環境経営実践会」での一コマ
2024年11月22日　広島県工業技術センターにて

更に後日談

埼玉より遥か900㎞、広島でのセミナーも主催の(公財)広島市産業振興センターの御尽力と柴田先生のフォローもあって無事終了。余談ですが隣県の岡山県から、地域事務局の方、そして岡山県内で長期にわたり全国区の御活躍をされている事業者様の社長様が、私の話を聞きに来てくださいました。CFPとは全く関係ありませんが、エコアクション21のパワーとそこで築くことができる強固な絆を目の当たりにし、エコアクション21に携わって満14年目の私、改めてその魅力を強く実感した次第です。
そして更に、この挑戦は雑誌社からも御注目頂くところとなり、何と日経BP社からの取材を受けることに。実は前頁に掲載させて頂いた一般社団法人　埼玉県中企業診断協会CFP算定タスクチームの皆様との写真、その取材の際に当社にお見えになられた編集長様から、無理を言って頂いたもの、だったりします……。
ところで、最後にCFP算定結果について簡単に。何と製品重量1に対してCFP17。つまり製品重量の17倍という大量のCO_2が載っているという何ともショッキングな結果でした……。
その元凶は材料のアルミ。当社としては頑張ってきたと自負していた脱炭素化への取組。今後は業界全体の努力が必要と痛感させられた、今回のCFP試算となりました。

「日経ESG」3月号表紙

廃棄物排出量(目標値：各グラフ上部に記載)

Plan Do Check 中期環境経営目標・2023年度環境経営計画及び実施状況

事業系一般廃棄物

基準年度	2014	中期環境経営目標					
	年度	年度	2023	2024	2025	2026	2027
基準年度	1,795	目標値	1,651	1,633	1,616	1,598	1,580
実績	kg	基準年度比	8%削減	9%削減	10%削減	11%削減	12%削減

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
排出量記録・月毎の見直し (加茂　隆弘)	12	10点	目標達成率156.91%(1,063kg) 次年度目標は基準年△9%
ウエスリユース(モップとして) (加茂　隆弘)	12	10点	毎月徹底して実施。 次年度も継続。
有価物置場に看板を設置 (加茂　隆弘)	12	10点	右の看板を設置し、完了。 次年度当該計画はなし※。
廃棄物に関する教育(年2回) (加茂　隆弘))	4 12	10点	計画通り実施。 次年度も年2回の実施を計画。

※有価物置場に看板設置に代わる環境経営計画として、次年度は「古紙回収ボックスの購入・設置」を計画します。

産廃(廃ウエス)

基準年度	2017	中期環境経営目標					
	年度	年度	2023	2024	2025	2026	2026
基準年度	1,800	目標値	1,728	1,710	1,692	1,674	1,656
実績	kg/日	基準年度比	4%削減	5%削減	6%削減	7%削減	8%削減

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
排出量記録・月毎の見直し (井出　学)	12	10点	総量目標達成率169.58%(1,019kg) 次年度は基準年△5%を目標とする。
「見える化」ボード定期更新及び朝礼における啓発 (井出　学)	4 12	10点	適宜確実に実施。 次年度は見える化ボードの設置位置の変更及びリニューアルを計画。
プレス機からの油の飛散についての分析と改善の実施 (田辺　栄一)	9 12	10点	右写真(丸囲み部)のような飛散対策がほぼ完了。 当該事項について次年度は計画としては設定しない。
分別の確認及び注意喚起 (井出　学)	12	10点	計画通り実施。 次年度も継続。

紙くず(有価物)

基準年度	2010	中期環境経営目標					
	年度	年度	2023	2024	2025	2026	2027
基準年度	25.64	目標値	37.64	38.64	39.64	40.64	41.64
実績	%	基準年度比	12%向上	13%向上	14%向上	15%向上	16%向上

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
リサイクル量記録・見直し (有山　浩一郎、ホアン・バン・フク)	12	10点	リサイクル率45.97%(目標達成) 次年度目標更に1%向上
紙類の分別の徹底 (全従業員)	12	10点	全従業員で徹底して実施。 次年度も継続。
ペーパーレス化の方法に関する検討実施 (全従業員)	12 15	10点	全従業員で徹底して実施。 次年度も継続。

※紙くずリサイクル率は以下の式で計算します。

$$\text{紙くずリサイクル率}(\%) = \frac{\text{ごみ総量}\left(\text{事業系}(kg) + \text{産廃}(kg) + \text{紙くず}(kg)\right)}{\text{紙くず}(kg)} \times 100$$

※廃アルミの原単位は調整原単位を使用します。

原単位算出式：基準年度の洗浄袋数を基に調整した排出量(kg)÷洗浄袋数(袋)
原単位計算方法については26頁「※1洗浄袋数(調整)原単位とその算出方法」をご覧ください。

廃アルミ（有価物）

基準年度	2010 年度	中期環境経営目標					
		年度	2023	2024	2025	2026	2027
基準年度	9.71	目標値	8.45	8.35	8.25	8.16	8.06
実績	ℓ/調整袋	基準年度比	13%削減	14%削減	15%削減	16%削減	17%削減

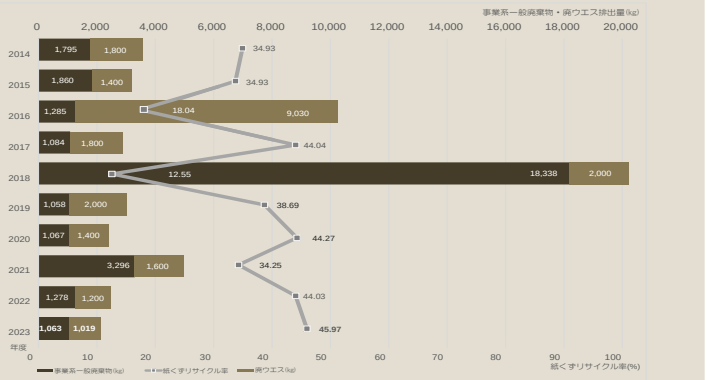
取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組※
排出量記録・月毎の見直し (加藤　直)	12	10点	調整原単位目標達成率135.71%(6.22) 次年度目標は更に△1%削減。
廃アルミ価格の調査 (加藤　直)	4, 8, 9, 12	10点	計画通り実施。 次年度も継続。
製品L寸法確認の徹底 (プレスオペレーター)	9, 12	2点	確認不備8件/年(前年度4件/年)。 次年度目標0件。
材料台管理(グリース交換) (加藤　直)	9, 12	10点	計画通り実施。 次年度も継続

※次年度の取組として上記に加え、担当ライン交替時の確認作業を新たな環境経営計画として実施します。

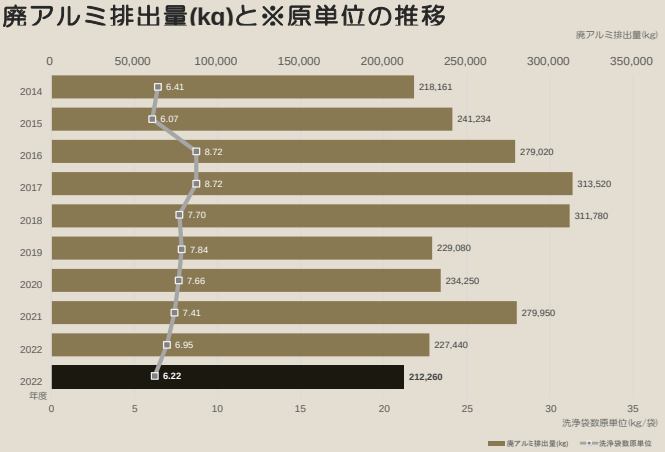
材料歩留まり

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
廃アルミ価格の「見える化」 (加藤　直)	4, 12	10点	計画通り実施し毎週掲示。 次年度は価格の調査に集約して実施。
材料つなぎ教育の(年12回) (井出　学)	4, 9	10点	計画通り実施。 次年度も継続。
つなぎ教育効果測定テスト実施 (井出　学)	4, 9	10点	計画通り実施。 次年度12回の実施を計画。
不良率の「見える化」 (井出　学)	9	10点	計画通り実施。 次年度も継続。
不良傾向の分析、個別指導 (井出　学)	4, 9	10点	計画通り実施。 次年度も継続。

事業系一般廃棄物排出量(kg)
産廃(廃ウエス)排出量(kg)　の推移
※紙くずリサイクル率(%)



廃アルミ排出量(kg)と※原単位の推移



Act 見直し　廃棄物排出量削減に関する代表者の評価・指示

廃アルミに関しては、不良品を極力出さない事が最大の効果を生むと考え、お客様とタテスジ不良の緩和への話し合いをしましたが、あまり成果を出す事ができませんでした。社内的にも使用可能な製品は、安直にスクラップにしないよう、申し入れています。

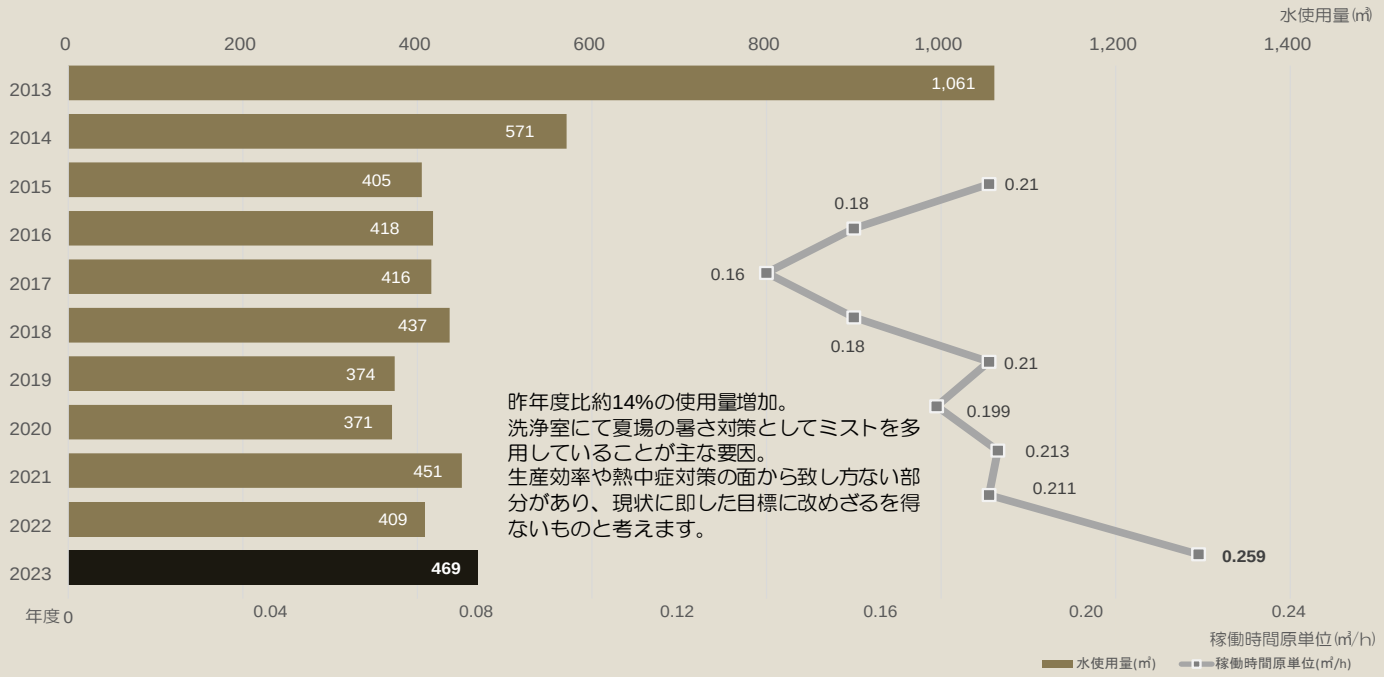
水使用量(目標値：月稼働時間原単位(㎥/h)

Plan Do Check 中期環境経営目標・2023年度環境経営計画及び実施状況

基準年度	2015	中期環境経営目標					
	年度	年度	2023	2024	2025	2026	2027
基準年度	0.215	目標値	0.206	0.204	0.202	0.200	0.198
実績	㎥/h	基準年度比	4%削減	5%削減	6%削減	7%削減	8%削減

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
使用量記録・月毎の見直し (宮本　哲次)	6	7点	原単位目標達成率79.66%(0.259)。 実態に合わないため次年度現状把握とする。
節水のための啓発教育実施 (宮本　哲次)	4, 6	10点	計画2回、実施2回(計画通り)。 次年度も年2回の実施を計画。
雨水有効活用(浄化槽汲取り用に) (宮本　哲次)	6	10点	計画通り実施(但し一部不徹底)。 次年度も継続。
水道メータの監視・速報値掲示 (宮本　哲次)	6	10点	計画通り実施。 次年度も継続。
蛇口点検(問題あれば補修) (宮本　哲次)	6	10点	計画通り実施。 次年度も継続。
洗濯・トイレでの節水方法研究 (宮本　哲次)	6, 12	0点	2年連続計画倒れで実施できず。 実施できないため次年度は計画に盛り込まない。
節水ポスターの更新 (宮本　哲次)	6	10点	計画通り実施。 次年度も継続。

水使用量(㎥)と稼働時間原単位(㎥/h)の推移(但し稼働時間原単位の評価は2015年度より)



Act 水使用量削減に関する代表者の評価・指示

水使用の50%以上が手洗いの時の使用と考えます。
定期的に手洗いの再教育を実施したらと、提案します。

化学物質使用量(目標値：各グラフ上部に記載)

Plan Do Check 中期環境経営目標・2023年度環境経営計画及び実施状況

炭化水素

基準年度	2017	中期環境経営目標					
	年度	年度	2023	2024	2025	2026	2027
基準年度	0.603	目標値	0.567	0.561	0.555	0.549	0.543
実績	ℓ/袋	基準年度比	6%削減	7%削減	8%削減	9%削減	10%削減

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
使用量記録・月毎の見直し (来　淳一郎)	12	10点	目標達成率108.72%(0.52)。次年度は基準年△7%を目標とする。
洗浄機の始業点検及び定期メンテナンス実施 (来　淳一郎、来　博行)	9	10点	どちらも計画通り実施。次年度も継続。

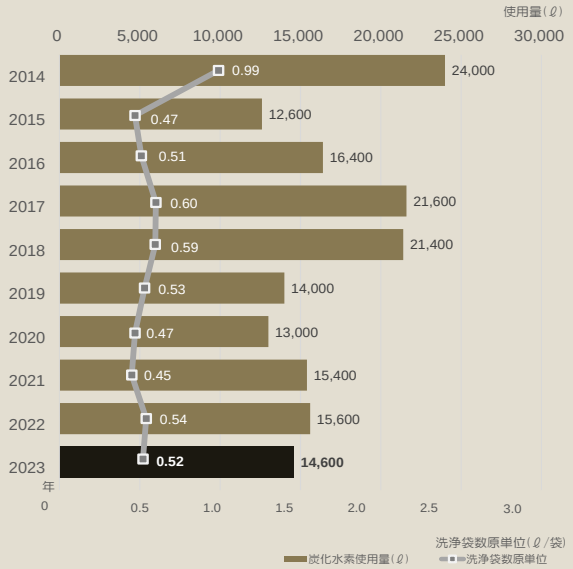
潤滑油

基準年度	2010	中期環境経営目標					
	年度	年度	2023	2024	2025	2026	2027
基準年度	0.93	目標値	0.82	0.81	0.80	0.79	0.78
実績	ℓ/調整袋	基準年度比	12%削減	13%削減	14%削減	15%削減	16%削減

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
使用量記録・月毎の見直し (来　尊重)	12	10点	総量目標達成率122.66%(0.62)。次年度は基準年△12%を目標とする。
新油の追加抑制策の検討・実施 (来　尊重)	9	10点	スイッチの入れ方の工夫や戻り効率の改善を実施。次年度も継続。

炭化水素使用量(ℓ)と※原単位の推移

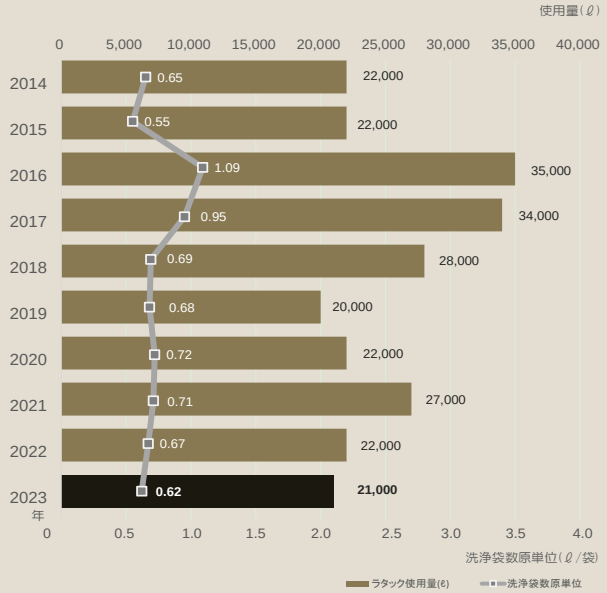
目標値：洗浄袋数(調整なし)原単位(ℓ/袋)



生産量2.4%減に対し使用量6.4%減。原単位としても減少しており、こまめなメンテンナンスが効果的であることが確認できます。

潤滑油使用量(ℓ)と※原単位の推移

目標値：調整洗浄袋数原単位(ℓ/袋)



生産量2.4%減に対し使用量4.5%減。生産量の減少分を上回る減少を実現できており、削減策の効果があるものと考えます。

※潤滑油の原単位は調整原単位を使用します。
原単位算出式：基準年度の洗浄袋数を基に調整した排出量(kg)÷洗浄袋数(袋)
原単位計算方法については26頁「※1洗浄袋数(調整)原単位とその算出方法」をご覧ください。

Act 化学物質(炭化水素、潤滑油)使用量削減に関する代表者の評価・指示

化学物質の使用量については、会社の稼働時間にほぼ比例すると思います。よって生産性を高め、極限まで時短を追求することが、大切と考えます。

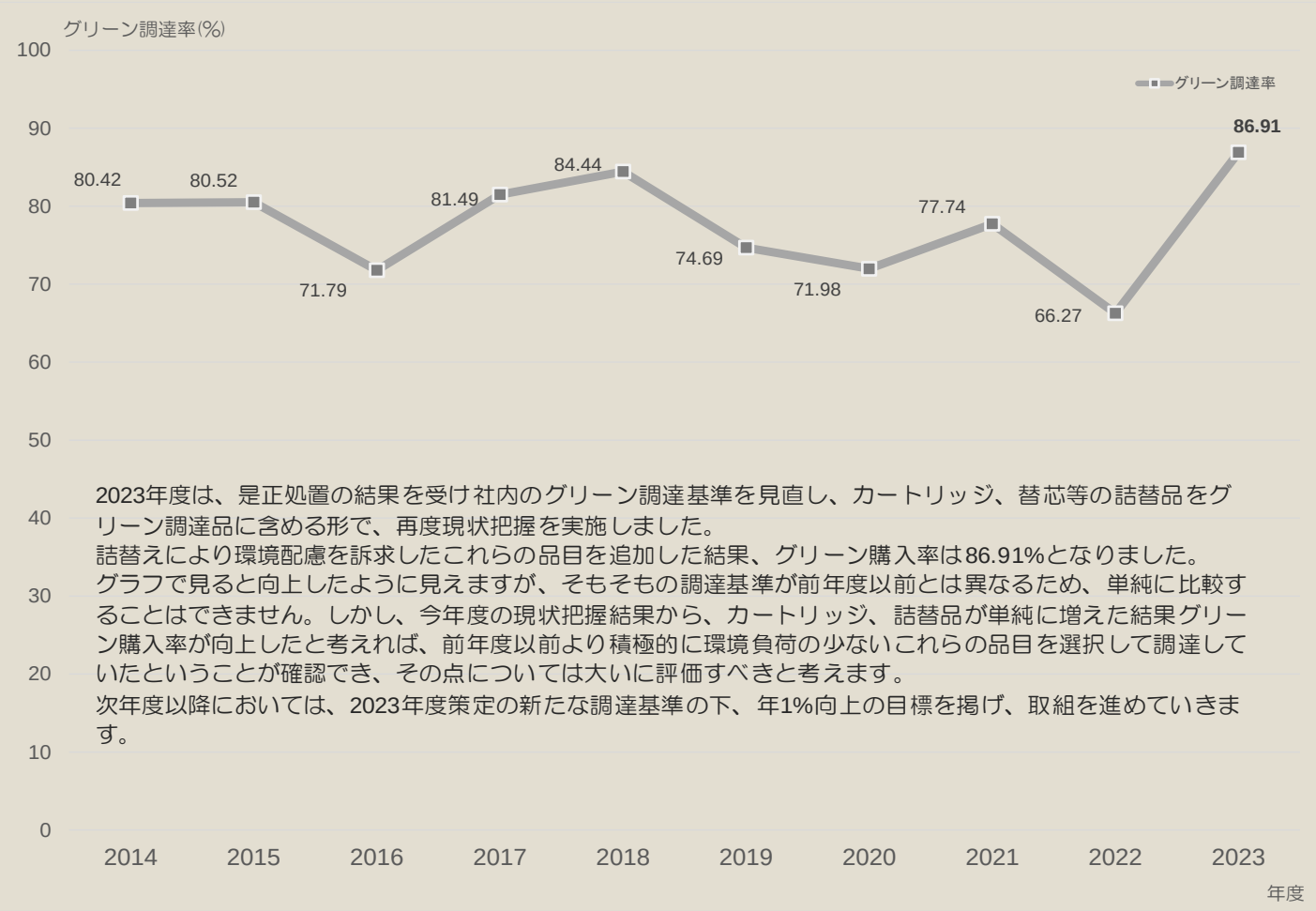
グリーン調達(目標値:グリーン調達率(%))

Plan Do Check 中期環境経営目標・2023年度環境経営計画及び実施状況

基準年度	–	中期環境経営目標					
	年度	年度	2023	2024	2025	2026	2027
基準年度	–	目標値	現状把握	2023年度の結果を基に新たな目標を策定			
実績	%	基準年度比	–				

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
グリーン購入率の記録・見直し (福田　則子)	12	—点	グリーン購入率86.91%。 詰替品、替芯などを調達基準に追加。 次年度は+1%向上を目標とする。
物品購入時、カタログにより選別し優先購入 (福田　則子)	12	10点	計画通り購入の都度実施。 次年度も継続。

グリーン調達率(%)の推移



2023年度は、是正処置の結果を受け社内のグリーン調達基準を見直し、カートリッジ、替芯等の詰替品をグリーン調達品に含める形で、再度現状把握を実施しました。
詰替えにより環境配慮を訴求したこれらの品目を追加した結果、グリーン購入率は86.91%となりました。
グラフで見ると向上したように見えますが、そもそもの調達基準が前年度以前とは異なるため、単純に比較することはできません。しかし、今年度の現状把握結果から、カートリッジ、詰替品が単純に増えた結果グリーン購入率が向上したと考えれば、前年度以前より積極的に環境負荷の少ないこれらの品目を選択して調達していたということが確認でき、その点については大いに評価すべきと考えます。
次年度以降においては、2023年度策定の新たな調達基準の下、年1%向上の目標を掲げ、取組を進めていきます。

Act グリーン調達に関する代表者の評価・指示

関連する皆さんの努力によって、グリーン調達率が過去最高になりました。
大変満足です。

来ハトメ環境トピックス2023
③　目指すは「更に持続可能な企業」
～SDGs、脱炭素の次の取組～

今やSDGs、脱炭素は「当たり前」

「当社は、SDGsに取組んでいます」、「当社は、2050年カーボンニュートラルを目指します」2020年以前には超先進的だったこれらのフレーズが今や巷にあふれかえっている状況――。わずか5年足らずで、まさかこんなに変わるとは……。それ以前より環境に携わっていた一担当者としての率直な感想です。
そんな状況ですから、今や、SDGs、脱炭素への取組はもはや当たり前の時代と化しています。そうなってくると、これらの取組の深度を深めつつ、その先にある取組にどんどんチャレンジしていかなければ、時代に取り残されてしまう――。そう、環境界にもトレンドというものは存在するのです。
そこで、当社が次に高めていこうと目論む「サーキュラーエコノミー」と「ネイチャーポジティブ」について、お話しようと思います。

そもそもなぜトレンドを追いかけるのか？

「ネタ探し、ご苦労さん！」環境管理責任者の任を受けた当初から、その時の環境界のトレンドを追い、それを取り入れることに注力した私。こうした動きはしばしば「ネタ探し」と揶揄され、否定的に見られたものでした(です)。
ではここで問いたい。「この行動は間違っているのか？」
試験問題にしても、何にしても、模範解答というものが存在します。もちろん、模範解答が全てではありませんが、模範解答に沿った答えが導き出せれば、不合格になることは決してない！では、環境界の模範解答とは何か？言うまでもない、環境界のトレンドこそが模範解答！これが、私が責任者となって以来、トレンドを追い続けた理由はその一点に尽きます。
審査、取引先をはじめとするステークホルダーからの目……。とかく環境というものは、様々な評価を受けることが多い取組。評価を受ける際、当社が目指す取組について、それがどんなにすごいものだったとしても、トレンドから外れていたら「ふーん」で終わってしまうことがほとんど。しかし、トレンド通りだったらどうでしょう。そんなに大したことのない取組だったとしても「すごいですね！」の評価になる。やっぱり、トレンドは無視することができないのです。
従って、環境を始めて既に15年となった今でも、トレンドを追い続けています。因みに環境界のトレンドを知るのに一番良いの媒体、個人的には環境省が毎年発行している「環境白書」だと思っています。

当社の「サーキュラーエコノミー」

「サーキュラーエコノミーとは、従来の3Rの取組に加え、資源の使用量・消費量を抑えながらこれまでのストックを有効活用し、付加価値を生み出す経済活動のことである」
サーキュラーエコノミーの辞書的な意味がこんな感じだそうですが、何とも理解しがたい表現のオンパレードですが、これならどうでしょう？
「サーキュラーエコノミーとは、廃棄物関する今までの取組(減らす、もう一度(何回も)使う、リサイクルする)は継続しつつ、今まで捨てていたものを資源として有効活用を目指す取組のこと」
要は、よく言う「有価物化」できるものを増やせば、それはすなわちサーキュラーエコノミーの取組となり得るわけです。
因みに当社では、環境への取組以前から廃アルミは有価物(というより貴重な収益源)であり、紙類は2010年、2011年にはウエスを洗浄機で洗って再使用(品質問題で現在は中止)、2013年からはビニール袋、ストレッチフィルムの有価物化に挑戦するなど、実は既にいいところまでいっているのです。
あとは、事業系ごみに混じるリサイクル可能な紙類を高精度で取り出すこと、現在産廃となっている廃プラスチック類(廃ウエス、雑ビニール)について、再資源化の可能性を探ることといった取組が必要、といったところ。
実は古くから有価物化に注力していたこともあり、サーキュラーエコノミーの分野でもアピールできるものは多分にある！そう思っているところです。

当社の「ネイチャーポジティブ」

ネイチャーポジティブとは「2030年までに生物多様性の損失を食い止め、反転させる」ことを言うそうで、どこかでよく聞く2030年がここでも登場します。
事業の中で生物多様性に絡む活動と言ってもなかなか難しいというのが正直なところ。しかし、生物多様性に関する正しい知識を身に着け、それを基に自らの行動や考え方を正すことならできる！そう考えています。
したがって、ネイチャーポジティブについては、現在の環境配慮の取組更に深め、環境負荷を極限まで減らすことの他、知識武装で対処しようというのが、現在の当社の考え方です。
当社の生物多様性教育については、43,44ページで詳しくお伝えします。

弊社を、もっと知ってほしいから～その他の環境活動(ステ

以下の活動は、今までに御紹介した法規制遵守、緊急事態対応、KPI(重要業績評価指標)設定項目以外の当社の環境活動と関連SDGs及び昨年度の取組状況の評価になります。

Plan Do Check 2023年度環境経営計画、SDGs及び実施状況の評価

	取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
化学物質の適正管理	サプライヤー調査及び不使用証明書発行依頼 (石原　隆雅)	12 16	8点	毎回実施するも2件納期超過があったため2点減点。 次年度は納期に細心の注意を払う。
	作業場へのSDS設置 (山崎　洋幸)	11 16	10点	使用箇所近辺にファイル管理。 安衛法義務につき当然継続実施。
	化学物質調査実施 (石原　隆雅)	11 16	10点	顧客より要請時に都度実施。 次年度も継続(新規採用時にも実施する)。
	リスクアセスメント (山崎　洋幸)	3 11 12 16	10点	今年度新規採用物質なく実施なし。 次年度新規採用等あれば実施。
	化学物質に関する教育 (加藤　直)	4 11 12 16	10点	計画2回実施2回(計画通り)。 次年度も年2回の実施を計画。
	取組概要(担当者)	**SDGs**	**評価点**	**寸評・次年度の取組**
環境への取組の継続的な改善・活動の質の維持・向上	エコ替え提案についての検討及び導入の決定 (来　満　、　来　昌伸)	7 12	10点	蛍光灯のLED化、センサーライト設置を実施。 現時点で具体的な実施計画はないが、エコ替え提案は受け付ける。
	資格取得支援 (来　満　、　来　昌伸)	4	―点	2023年度当該事案なし。 次年度も実施。
	eco検定講座実施 (来　博行)	4	10点	計画・実施共に12回(計画通り)。 次年度も年12回を計画。
	セミナー情報の案内 (石原　隆雅)	4	5点	主に外部向けで社内向けはなし。 次年度も実施。
	取組概要(担当者)	**SDGs**	**評価点**	**寸評・次年度の取組**
環境教育・訓練の実施	製造部門環境教育 (来　尊重)	4	10点	計画年4回実施4回(計画通り実施)。 次年度も年4回の実施を計画。
	管理部門環境教育 (佐々木　勝)	4	10点	計画、実施共に年4回(計画通り)。 次年度も年4回の実施を計画。
	コスト意識改善(備品の価格表記及び管理) (大小堀　レオニラ)	4 12	3点	前年度同様、記録は取れど持出情報の活用、改善には踏み込めず。 次年度も実施するが工夫が必要。
	取組概要(担当者)	**SDGs**	**評価点**	**寸評・次年度の取組**
5Sの徹底	5S活動実施 (全従業員)	5 10	8点	2件の未実施発生(是正処置実施)。 次年度は若干規模を縮小し継続。
	5S活動活性化の推進 (山崎　洋幸)	5 10	10点	毎月掲示及び朝礼啓発を実施。 次年度も実施状況の記録・報告を実施。

ークホルダーエンゲージメント)～

そのいずれも、お客様、従業員の家族の皆様をはじめ全ての関係者様に当社を知って頂き、弊社のファンになって頂くための活動となりますので「ステークホルダーエンゲージメント」という視点でこれらの活動の実施状況を御紹介します。

	取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
生物多様性の保全に関する取組	生物多様性教育の実施 (石原　隆雅)	4 14 15 16	8点	計画6回実施共に5回。 次年度年5回の実施を計画。
	森林認証品使用及び切替 (福田　則子)	12 15	10点	積極的に森林認証品を使用。 次年度も継続実施。
	用水路の定点撮影 (石原　隆雅)	6 14 15	10点	計画年4回、計画通り実施。 次年度も継続して記録。
	定点撮影結果の分析 (石原　隆雅)	4 6 14 15	10点	専用フォーマットに掲示比較可能な状態で記録。 次年度も継続して記録。
	取組概要(担当者)	**SDGs**	**評価点**	**寸評・次年度の取組**
地域貢献	環境ボランティア参加 (来　昌伸)	11 15 17	10点	全て参加することができた。 次年度も継続(新規参加者の勧誘も実施)。
	ボランティア実施報告 (ボランティア参加者)	11 15	10点	社内メール活用し計画通り実施。 次年度も同様の方法で継続。
	ペットボトルキャップ収集及び寄付 (来　博行)	1 3 17	10点	2023年度10,191個、累計75,309個のペットボトルキャップを収集・寄付。 次年度も継続して実施。
	取組概要(担当者)	**SDGs**	**評価点**	**寸評・次年度の取組**
SDGs	SDGs個人目標への行動 (全従業員)	※	7.9点	各自実施(評価点は「私のSDGs」平均点)。 次年度も継続して実施。
	SDGsに関する情報発信、啓発教育 (石原　隆雅)	4 17	10点	「月刊 まいにちSDGs」毎月発行及び外部発信を実施。 次年度も継続して実施。
	取組概要(担当者)	**SDGs**	**評価点**	**寸評・次年度の取組**
情報開示	環境経営レポート及び活動状況の公開 (石原　隆雅)	12	10点	リニューアルしたホームページに更新。 当然、次年度も継続。
	当社Webサイト、動画サイトの運営及びメンテナンス (石原　隆雅)	12	5点	Webサイトのメンテナンスは実施するもの、動画サイトはできず。 次年度はWebサイトに注力する。
	レポート及び動画サイト更新案内等外部組織との情報交換。 (石原　隆雅)	12 17	10点	レポート更新情報をメールにて各所に連絡。配布も行った。 次年度も継続して実施。

※SDGsの取組は、個人により異なります(「私のSDGs」(7～12頁)御参照下さい)。

その他の環境活動ピックアップ

1) Do 実施 丁寧な情報開示と多様な媒体による公開(環境経営レポート)

以下の各媒体にて当社環境経営レポート絶賛公開中です。

当社環境経営レポート公開ウェブサイト一覧

■ 弊社ホームページ

2010年版～2023年版まで公開中
http://yashio@rai-hatome.co.jp
上のメニューバー「品質・環境への取組」→「環境活動(経営)レポートはこちら」のアイコンをクリック。

審査終了後(9月頃予定)に最新版を公開予定。

■ ea21中央事務局ウェブサイト

最新版のみ公開
www.ea21.jp/
トップページ→認証・取得された事業者の方へ→環境経営レポートについて(右画面)検索欄「認証・登録番号(0005644)」または「事業者名(来ハトメ工業)」と入力し「上記の内容で探す」をクリック。

■ CSR図書館.net

2015～2023年版まで公開中
csr-toshokan.net/
トップページ下の「報告書検索」(四角囲み部分)に「来ハトメ工業株式会社」と入力し「検索」をクリック

それぞれのサイトには下記QRコードからアクセス可能です。

当社ホームページ　ea21中央事務局ウェブサイト　**CSR図書館.net**

2) Do 実施 安心をお届けするための誠実な対応(化学物質調査)

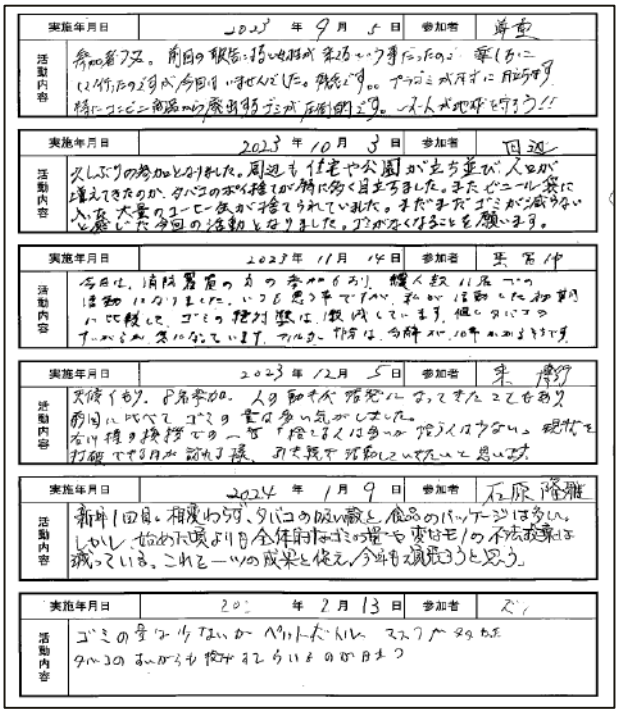
当社が身を置く電子部品業界において、環境関連で最も重視されるのが化学物質管理。
当社では、社内での管理を含め、新規規制物質が生じた場合には即座に調査・回答を実施。安心のための最重要事項と位置付け誠実な御対応に努めています。

年・月	御依頼内容	結果
2023.6	REACH　SVHC第29次(2物質)含有調査依頼(顧客A)	既知の含有なし
2023.7	REACH　SVHC第29次(2物質)含有調査依頼(顧客B)	既知の含有なし
2024.2	客先不使用物質リスト更新に伴う調査依頼	全対象物質非含有

2023年度化学物質関連の問合せ状況

3) Do 実施 市内美化のために立ち上がった10名の有志達(環境ボランティア)

当社社長が会長を務める八潮市防火安全協会。その協会が主催する月1回開催の環境ボランティアに10名の有志が参加しています。
朝7:00から開始というスケジュールのせいか、年々参加者は減少する中、当社からはローテーションで1名ずつではありますが、毎月コンスタントに参加を継続しています。
右は2023年度下半期分のボランティア活動報告。社内資料の一部(しかも参加者の直筆)ではありますが、もしかしたらどんな写真よりも、ボランティアに参加している者の熱い想い、お伝えできるのではないかと思い、掲載させて頂きました。


実施年月日　2023 年 9 月 5 日　参加者　尊重
活動内容　参加者フス。前回の報告に挙げた地域が来ていない事だったのが、残念に思います。今回は参加者が居ませんでした。残念です。プラゴミが所々に目立ちます。特にコンビニ前辺りの廃出物ゴミが圧倒的です。一人一人が地球を守ろう!!

実施年月日　2023 年 10 月 3 日　参加者　田辺
活動内容　久しぶりの参加となりました。周辺も住宅や公園が立ち並び人口が増えてきたのか、タバコのポイ捨てが特に多く目立ちました。また、ビニール袋に入った大量のコーヒー缶が捨てられていました。まだまだゴミが減らないと感じた今回の活動となりました。ゴミがなくなることを願います。

実施年月日　2023 年 11 月 14 日　参加者　渋谷仲
活動内容　今日は、消防署員の方の参加もあり、総人数11名での活動になりました。いつも思う事ですが、私が活動した初期に比較して、ゴミの絶対数は、激減しています。但し、タバコのゴミが多く目立っています。マルカン、仲は、今年が、10年目のようです。

実施年月日　2023 年 12 月 5 日　参加者　来　勝
活動内容　天候くもり。8名参加。人多動きが活発になってきたことをあり前回に比べてゴミの量は多い気がしました。右肩様の挨拶での一言「捨てる人は多いが拾う人はいない。現状を打破できる日が訪れる様、お互様で頑張っていきたいと思います。

実施年月日　2024 年 1 月 9 日　参加者　石原隆雄
活動内容　新年1回目。相変わらず、タバコの吸い殻と、食品のパッケージは多い。しかし、始めた頃より自分全体的にゴミの量や変なモノの不法投棄は減っている。これを一つの成果と捉え、今年も頑張ろうと思う。

実施年月日　20　年 2 月 13 日　参加者　ス
活動内容　ゴミの量が少ないが ペットボトル、マスク 多かった タバコのポイ捨ても 減ってきたものが目立つ

4) Do 実施 10年目に突入！命を救う地道な取組(ペットボトルキャップ収集)

2014年に取組開始。従業員全員の協力の下、気づけば10年目を迎えるに至りました。
社内、家庭、そしてさらには自身の所属団体まで巻き込んで、10年間で集めに集めたペットボトルキャップの数たるや、何と75,309個！
この数を従業員一人当たりで換算すると2,282個。どれだけ飲んでるのか……、というのはまぁ置いておいて、ワクチンに換算すると94本分になるとか。
記念すべき100本寄付まであと約5,000個。次年度の大記録達成に向け、従業員一同、2024年度も頑張って飲みます。

当社版「ネイチャーポジティブ」実現に向けた取組

当社が「生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組」を環境経営方針(当時は環境方針)に初めて盛り込んだのは2012年3月のこと。以来今日まで、生物多様性に関する教育を中心に据えつつ、森林認証品の選択購入、敷地に接する用水路の定点観測といった至って地味な取組を続け、今日に至りました。

1) Do 実施 取組の中心は何とクイズ(生物多様性教育)

生物多様性、その奥の深さたるや我々の理解を遥かに超える世界であり「種の、遺伝子の、生態系の……」ということを一つ一つ教えていくのは、並大抵なことではありません(以前は座学もしていたのですが……)。
そこで取り入れたのが、クイズによる教育。生物多様性に関する本から興味深い話題をピックアップし、問題を作成。それを全従業員に解いてもらい、解答・解説を配布。方法としては実に単純、なのです。
右は2023年10月に実際に出題した問題と終了後に配布した解説。問題だけ見ると実にハイレベルで、これを実力で解いたら0点続出！となりそうなところですが、そこは御心配なく。このテスト、実は、参照、相談全てOKなのです!!
「そんなことしたらテストにならないでしょ？」という疑問もあろうかと思いますが、このテスト、そもそもの目的が、知識を試すことではありません。
テストの解答をするために関連の情報を調べる、出題された内容を従業員同士で話題にしてもらう、こうしたことこそ真の狙いなのです。
生物多様性を従業員の話題の中心にさせるツールと思っていただければしっくりくるかも知れません。こうした意味では、テストというよりも、内部コミュニケーションのツールに近いもの、と言えるかも知れません。

第1問(復習問題、2ポイント)

現在、1年間に約(　　)種の生き物が絶滅していると言われている。
① 40　② 400　③ 4,000　④40,000

第2問

次の(A)、(B)に入る言葉の適切な組み合わせを①～④から1つ選べ。
2005年に英国の経済学者であるニコラス・スターンが発表した「スターン・レビュー」では、「温暖化対策について、このまま進行すると世界のGDPの(　A　)に相当する被害が出る。それを防ぐための投資は、今ならGDPの(　B　)%ですむ」と試算し、早期の温暖化対策の必要性を説いた。

① A2～10　B 10
② A5～20　B 10
③ A5～20　B 1
④ A2～10　B 1

第3問

全世界の昆虫による受粉サービスの経済的価値は約(　　)と試算されている。
① 250億円　2,500億円　② 2.5兆円　③ 25兆円　④ 250兆円

第4問　SDGs問題(2ポイント)

日本におけるSDGsの最大の課題は(　　)である。
① 3　全ての人に健康と福祉を
② 5　ジェンダー平等を実現しよう
③ 7　エネルギーをみんなに　そしてクリーンに
④ 9　産業と経済革新の基盤をつくろう

第1問

復習問題ですので、正解者には2ポイント差し上げます。
種の絶滅速度に関する問題です。
2億年くらい前の恐竜がいた時代は、**1000年間で1種**の生物が絶滅していました。しかしそれが100年前には1年に1種のペースになり、1975年には**1年に1000種類**。今では**1年間に4万種**以上の生物が絶滅しているといわれているのです。**1日あたりに換算すると100種類以上の生物が絶滅している**ことになります。

答 ④

第2問

英国の経済学者ニコラス・スターンが2006年に発表した「スターン・レビュー」からの問題です。「スターン・レビュー」では、「温暖化対策について、このまま進行すると世界のGDPの5～20%に相当する被害が出る。それを防ぐための投資は、今ならGDPの1%ですむ」として、早期の温暖化対策の必要性を説き、各国の温暖化対策に大きな影響を与えました。

答 ③

第3問

昆虫の受粉サービスの経済価値に関する問題です。
2010年に名古屋で開催されたCOP10では「自然の経済学を主流化する」と題した最終的な統合報告書を発表、その中で、全世界の昆虫による受粉サービスを合計すると、その経済的価値は1530億ユーロ(1ユーロ157円換算で24兆210億円)となります。

答 ②

第4問

SDGs問題になります。正解者には、最先端の知識習得に敬意を表し、2ポイント差し上げます。
国際的な研究組織「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」(SDSN)は2023年6月21日に発表した世界各国のSDGsの達成度を評価した「Sustainable Development Report」(持続可能な開発報告書)の2023年版によると、日本のSDGs達成度は166カ国中21位という結果でした。
前年の19位(163カ国中)から2ランク下がり、特に17の目標のうち、ジェンダー平等や気候変動対策など五つの目標が「最低評価」という結果でした。

答 ②

2) Do 実施 何とクイズが取組の中心(生物多様性教育)

「付近の定点観察をするとよい。」
生物多様性の取組を始めるときに参照した本の情報を参考に始めた取組ですが、イマイチ変化は見られないのが現状……。
変化がないということは当社が周辺環境を壊していない証拠。そう捉えてこれからも続けていきます。

そんな生物多様性、「ネイチャーポジティブ」という言葉の誕生で、大きく動き出そうとしています。
ここでは「ネイチャーポジティブ」が提唱される前から今日まで続けてきた当社の生物多様性と持続可能な利用に関する取組の数々をご紹介します。

3) Do 実施 SDGsと絡めて最先端情報を提供(『月刊 まいにちSDGs』)

「SDGsはもはや当たり前の取組。」
38頁のトピックで触れた通り、こうした考えの下、事務局ではSDGsを発展た先に待っている取組を徹底調査し、逐一従業員に伝えるよう努めています。
昨今、そのツールとして存在感が増してきているのが右に示した『月刊　まいにちSDGs』。
かつてはSDGsのアイコン毎の意味、どのような取組がSDGsに当たるのかなどをメインに扱っていましたが、SDGsの進化と共に情報誌も進化。昨今はSDGsと非常に関連が深いこれからの取組と言われる「脱炭素」「気候変動適応」「サーキュラーエコノミー」といったトピックが扱われています。
とはいうものの、この『月刊　まいにちSDGs』、常に廃刊とも隣合わせの危うい情報誌……。何とか月刊体制を維持できるように、2024年度も頑張ります……。

月刊　まいにちSDGs
～SDGsを使いこなす企業となるための情報誌～
2023年11月30日発行(通巻第71号)
来ハトメ工業㈱EA21事務局　SDGs推進委員発行

脱炭素の次の来るもの

「脱炭素チャレンジカップ2024」の選考が早くも始まっているという。皆さんの知る通り、前回の脱炭素チャレンジカップ2023を制したのは当社であるが、今年もまた新たなチャンピオンが2月に登場する。もしかしたら、中小企業でカーボンニュートラルを達成した企業が、今年あたり現れたりして……。そんな期待を抱きながら、今年の選考の結果を楽しみに待っていたりする。
この脱炭素について、国が目標にしているのは2030年。現在、自治体や企業、学校や個人に至るまで2030年の目標を目指して動き始めたところではあるが、環境の世界は日進月歩。脱炭素の陰でこれから来るテーマがひしめき合っているのだ。
今回は、そんな未来の環境界のテーマの中から「サーキュラーエコノミー」の話をさせて頂こうと思う。

サーキュラーエコノミーとは?

サーキュラーエコノミーついて調べてみると、こんな説明がある。
サーキュラーエコノミーとは、従来の3Rの取組に加え、資源の使用量・消費量を抑えながらこれまでのストックを有効活用し、付加価値を生み出す経済活動のことである……?
何か、何とも理解し難い表現のオンパレードに困惑しそうだが、これを噛み砕いて読むとこんな感じになるのではないかと……。
サーキュラーエコノミーとは、廃棄物について今まで行ってきた3R（リデュース(捨てる量を減らすこと)、リユース(同じ形のまま複数回使用すること)、リサイクル(形を変えて別のものに生まれ変わらせること)に加え、資源の使用(消費)量をなるべく少なくしつつ、ストック(今まで廃棄してきたような製品や原材料のこと)を「資源」として有効活用することで、それらに付加価値を生み出す経済活動のこと。
つまり、廃棄物に関する今までの取組は継続しつつ、今まで捨てていたものを資源として有効活用を目指す取組のことと言えそうだ。
下の概念図をご覧頂くと更に分かりやすい。従来の流れでは使用後廃棄物としていたもの(下図左、リニアエコノミー)からリサイクルできるものを除し、リサイクルのループに乗せ、繰り返し使える状態(下図右、サーキュラーエコノミー)を作っていこう、というもの。当然、原材料の内、使用後まだリサイクルして使えるものが増えれば、新たに資源を使用する量を減らすことができ、このような循環の活動が事業になれば、その部分に新たな雇用が生まれる、ということが考えられているのだ。

具体的な取組事例

● RE.UNIQLO（ユニクロ）
ユニクロ(㈱ファーストリテイリング)が2020年からスタートした、不要になったユニクロの服を回収し、再び服を作る循環型プロジェクト。新商品第1弾となる「リサイクル ダウンジャケット」では、日本国内で回収した62万着のダウン商品が再生・再利用されており、資源の消費削減に貢献していると謳っており、同社は当プロジェクトを無駄な廃棄物やCO2排出量・資源使用量を削減することで、より環境と社会に良いブランド化に繋げる目論見もあるという。

このように、大企業から始まっている「サーキュラーエコノミー」、中小企業の我々が考えるなら、今が絶好機！かも知れない。

編集後記
SDGsから脱炭素、そしてサーキュラーエコノミーへ。
環境界は新たなトレンドが目まぐるしく登場していく業界。
それについていくのも環境担当の重要な仕事、なのかもしれない……。

用語解説 ネイチャーポジティブ
～実は、そんなに特別なものではない？～

これが当社版ネイチャーポジティブだ！

38頁でも触れた通り、ネイチャーポジティブとは「2030年までに生物多様性の損失を食い止め、反転させる」ことを指しますが、我々エコアクション21認証事業者はいかにしてこの超難解(?)なテーマと向き合うべきなのでしょうか。
2020年9月に生物多様性条約事務局が示した、生物多様性の損失を減らし、回復させる(つまりネイチャーポジティブの)行動の内訳によると

1　消費と廃棄物の削減
2　持続可能な生産
3　汚染、侵略的外来種、乱獲
4　気候変動対策
5　生態系の保全と回復

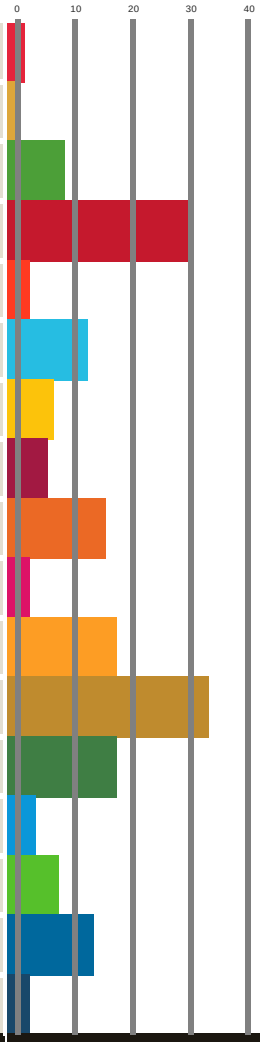
「あれっ、もしかして既に取り組んでいること、けっこう多いじゃん？」
勘の良い方ならそう思われるのではないでしょうか。実はその通り！なのです。
1,2は、既に取り組まれている廃棄物削減や本業の取組。更にカッコよく言えば、サーキュラーエコノミーなんかとても関連性が深い部分とも言えるでしょう。
4はズバリ「CO_2排出量の削減」、そう、脱炭素化に向けた取組ですよ！そう考えるとネイチャーポジティブ、ちょっと身近に感じられたのでは？
最後に残るは3と5。当社では教育を中心に据え、生物多様性に関する知識定着とネイチャーポジティブの実現を目指しているのです。

SDGsで見る2023年度環境活動総括

2023年度環境経営計画SDGs評価点採点結果

当社の2023年度の環境活動計画をSDGs化し、各ゴールに該当する活動の数(アイコンベース)を集計した結果は、以下の通りとなりました。

NO.	アイコン	SDGs目標	具体的施策	取組数	※合計数
1		貧困撲滅	募金 ボランティア		1 (1)
2		食糧問題解決	食べ残し防止		0 (0)
3		健康	禁酒、禁煙、運動 労働安全		8 (6)
4		教育	学習		30 (30)
5		男女平等	家事分担		2 (2)
6		水	水質汚濁防止 節水		12 (11)
7		エネルギー	クリーンエネルギーへの転換		6 (6)
8		経済成長、労働	雇用 売上目標達成		5 (5)
9		インフラ、産業化	生産 不良削減		15 (13)
10		不平等是正	賃金改善 外国人差別改善		2 (2)
11		都市、居住	住宅購入 防災、SDS		17 (14)
12		生産、消費	グリーン調達 廃棄物、CSR		33 (41)
13		気候変動対策	温室効果ガス削減		17 (19)
14		海洋保全	海洋汚染防止 生態系保護		3 (3)
15		陸域保全	生態系保全 砂漠化対策		7 (6)
16		平和、司法	戦争撲滅、政治参加 コンプライアンス		13 (12)
17		パートナーシップ	企業間協力 諸団体活動への参画		2 (4)
2023年度取組SDGs合計数					173 (173)



※合計数の(　　)内の数字は前年度実績を表します。

計画したもののやむを得ない事情で実施できなかったもの(評価(-)のもの)は合計数に含みません。

2023年度のSDGs評価点に基づく振り返りと次年度以降の課題

アイコンベースでの数は昨年度と変わらず、評価点は0.2点上昇し9.0点という結果に終わりました。新たな取組を増やすといった変化が少なかったことについては反省しなければなりませんが、従来からの取組にしっかりと取組むことができたことは大いに評価できるものと考えます。

次年度については新たな取組へのチャレンジということで言えば、2023年度同様少なめの印象です。しかし、レポートの中で取り入れた「サーキュラーエコノミー」、「ネイチャーポジティブ」への挑戦が本格的に始まることとなりますので、これらを軸に評価点の上昇を目指す。こんな年となりそうです。

2023年度環境経営計画SDGs評価点採点結果

この頁は、当レポート17～44頁に記載した取組毎のSDGs評価点を集計したものです。
取組内に複数のSDGsがあるものについては評価点はどちらも同じ点数として集計し、最後にそれぞれの平均点を算出し2023年度のSDGsの評価点としました。

NO.	アイコン	当社の主な取組	掲載頁	採点結果	※評価点
1		キャップ収集	42		10.0 (10.0)
2		取組なし	—		0.0 (0.0)
3		労働安全衛生、災害物資備蓄 エコドライブ	17,21 30		8.3 (9.2)
4		教育(全般)	17～23 29～44		9.1 (9.5)
5		5S	39		9.0 (10.0)
6		訓練(潤滑油漏洩) 教育(水)、生物多様性(定点撮影)	23,24 35,43		8.9 (9.9)
7		エコ替え エコドライブ	29 30		6.7 (7.7)
8		緊急事態(洪水) デマンド抑制策検討、廃アルミ価格調査	23,24 29,34		10.0 (8.0)
9		緊急事態(洪水)、デマンド抑制 廃アルミ、化学物質	23,24 33,34,36		8.8 (8.2)
10		5S	39		9.0 (0.0)
11		騒音測定、緊急事態 化学物質管理、環境ボランティア	17,23,24 39,40		9.6 (9.4)
12		安全衛生教育、ハザードマップ 環境負荷の使用・排出、CSR	17,23 29～44		8.9 (8.4)
13		第1種特定製品定期(簡易)点検 気候変動適応,エネルギー使用量削減	17 23,29,30		8.6 (8.7)
14		教育(生物多様性)	40,43		9.3 (10.0)
15		ペーパーレス化 教育(生物多様性)、森林認証紙使用	33 40,43		9.7 (10.0)
16		法令遵守 化学物質適正管理、生物多様性教育委	21 39,40,42,43		9.4 (9.3)
17		地域貢献、SDGs、情報開示	40～42,44		10.0 (10.0)
2023年度評価点平均(前年度)					**9.0 (8.9)**

※評価点の(　　)内の数字は前年度実績を表します。

その他の環境への取組に関する代表者の評価・指示

ここ数年の毎日の気象を見るにつけ、明らかに地球が変化していることが明確になっています。気温は5月より夏気温になり、雨が降ればいきなり豪雨になり、災害はニュースにならないくらい日常茶飯事に起きています。
この異常気象を乗り越えるために、各自できることは何でもやろう！
一人の力は微力かも知れませんが、みんなが集まれば大きな力になるものです。
何度も何度も言います。あきらめるには、早すぎるのだ!!

1)全体的な感想

各項目ごとに関わっている社員とそれぞれが真剣に取り組んでいる様子が散見され、大変うれしく頼もしく感じられました。
SDGsに関しても徐々に自発的に行動し、理解を深められているようです。
継続は力！来期も皆さん宜しくお願いします。

個別の項目毎の評価と指示内容については、21～46頁を参照下さい。

2)指示

①　環境経営方針

変更の必要性：2024年度は変更なし。

現時点においては、時代の流れに即した環境経営方針が策定されているものと考えます。従って、2024年度における新たな変更は行わないものとします。

但し、昨今の社内における環境教育にて、SDGsの先を見据えたいくつかの新たな行動についても環境管理責任者から紹介されています。

これらについては現状の枠組みの中で取組可能とのことですが、より前面に打ち出す必要性があれば、方針に盛り込むことも検討しますので、環境管理責任者にあっては世の中の動向や政策等に常に目を配り、適切な提案をして下さい。

②　環境経営目標及び環境経営計画

変更の必要性：あり(詳細は下記の通り)

2023年度の未達項目は水使用量1項目。特に一昨年辺りから洗浄場にて夏場の暑さ対策の一環としてミスト扇の使用やチラー散水が実施されている影響が大きいものと考えます。但しこれらには従業員の熱中症対策や生産効率向上といった意味合いもあるため、削減優先というわけにもいきません。
取組自体をこうした状況の変化に合わせる必要がありますので、水使用量については2024年度は環境経営計画を遂行しつつ、現状の使用状況を把握することに努めてください。
その他の環境経営目標は全て達成。策定している環境経営計画が的を得た活動であることをはっきり表しているのはもちろん、従業員の皆様の日頃の努力の成果とも言うことができるでしょう。本当にありがとうございます。
2023年度達成した環境経営目標については、全て1ランク高い目標にステップアップすることとします。

CO_2排出量の削減目標

項目	※削減目標					
	基準年度	2024年度	2025年度	2026年度	2030年度	2035年度
CO_2排出量	2013年度	68.0%削減	73.0%削減	78.0%削減	95.0%削減	100%削減

2023年度のCO2排出量は3.27t-CO_2。2023年度に到達した5tの大台から更なる削減に成功しました。灯油暖房器の廃止と社用車の台数減の成果と言えましょう。

今後においては、フォークリフト燃料、湯沸し器、金型焼入れバーナー(LPG)と社用車燃料(ガソリン)といった残りの部分をどこのタイミングで減らすか、ということになります。これらを変えていくことは個人的には不可能ではないと考えますので、環境管理責任者はじめ全従業員にあっては、取組を決して後退させないよう、前向きな姿勢で臨んでください。

私個人としては、入社以来製造現場に身を置いているものとして、特に金型焼入れの脱炭素について、真剣に考えてみることとします。在職中に当該部分をクリアにし、製造部門の脱炭素化を達成した上で次の世代にバトンタッチできれば、と思っています。

※(環境管理責任者追記)削減目標の根拠について

CO_2排出量の基準年度(2013年度)とゴール(2030年度)については、国の地球温暖化対策計画(2021年4月策定)と整合させました。

弊社の2015年度のCO_2排出量実績値(251,277kg-CO_2)をスタートラインとし、それを上記の目標年度(2030年)までの15年間で2013年度比95%削減させることを目標としています。

尚、2024年度以降の各年度の目標値は、2015年度の実績値である251,277kg-CO_2から2030年度までの目標値(163,168.5kg-CO_2)を減算し、その数値をスタートから目標年までの年数(15年間)で均等割りすることで、各年の年間目標値として設定したものです。

その他の項目削減目標

項目	基準年度	※削減目標		
		2024年度	2025年度	2026年度
電力	2015年度	原単位△9%	原単位△10%	原単位△11%
LPG	2010年度	原単位△14%	原単位△15%	原単位△16%
ガソリン	2023年度	総量△1%	総量△2%	総量△3%
事業系一般廃棄物	2014年度	総量△9%	総量△10%	総量△11%
産廃(廃ウエス)	2017年度	総量△5%	総量△6%	総量△7%
紙くず(リサイクル率)	2010年度	12%向上	13%向上	14%向上
廃アルミ	2010年度	原単位△14%	原単位△15%	原単位△16%
水	ー	現状把握	新たな目標策定	新たな目標策定
炭化水素	2017年度	原単位△7%	原単位△8%	原単位△9%
潤滑油	2010年度	原単位△13%	原単位△14%	原単位△15%
グリーン調達率	2023年度	1%向上	2%向上	3%向上

※(環境管理責任者追記)削減目標について

- 削減目標に「原単位」とあるものの原単位については、下記の原単位を目標値とします。

電力、廃アルミ、潤滑油(ラタック) ：**洗浄袋数(調整)原単位**
当レポート26頁参照。

炭化水素 ：**洗浄袋数(調整不要)原単位**
(使用量(ℓ)÷洗浄袋数(袋))

LPG、灯油 ：**稼働日原単位**
(使用量÷稼働日(日))

水 ：**稼働時間原単位**
(使用量(㎥)÷稼働時間(h))

③　実施体制

変更の必要性：あり(詳細は下記の通り)

2023年度は製造部門責任者変更の初年度となりました。製造部門責任者は本人なりに考え、よく職責をこなしていたものと評価します。

2024年度にあってはエコアクション21実施体制の変更は実施しませんが、2024年1月に将来の世代交代に向けて新たな役員を3名任命しています。

エコアクション21の取組は会社が続く限り続けられる永続的な取組です。世代交代を終えた後においても今以上に環境への取組を発展させられるよう、環境管理責任者にあっては、新たな役員とも積極的にコミュニケーションを図り、取組への理解を今以上に得られるよう、力を尽くしてもらえれば、と思います。